



三重塔とさくら (長谷寺)

春はお水取りから  
 土筆が顔をあらわし  
 苔の蘚がすくっと伸びている  
 心和むようなうらかな春の日  
 爽やかな風がそよぐ  
 春の色彩は清楚な白  
 白梅 雪柳 馬酔木 辛夷  
 白く輝く木蓮の花  
 続いで薄紅の桜 椿の紅  
 紅のじゅうたんをしいたような  
 れんげ畑  
 鮮やかな黄色の笑顔をふりまく  
 菜の花  
 薄曇りの光線が  
 満開の花々を美しくらせる



春を呼ぶお松明 (東大寺二月堂)

Photo essay

# 春が来た

題字 中田 蘭 石  
 撮影 由井 収一  
 文 松 永 恵



白く輝く木蓮の花 (長谷寺)

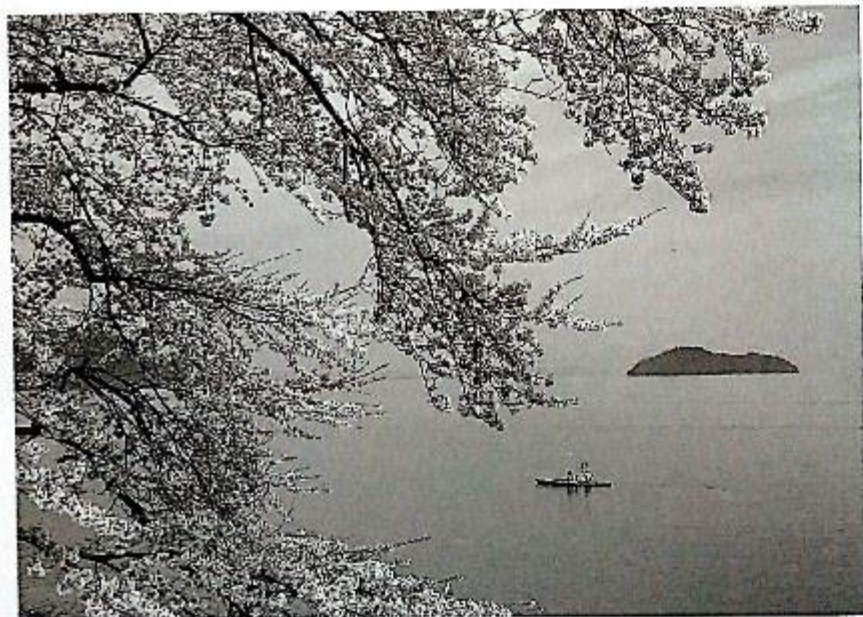
季節の



春うらら石仏



春風



春の湖

実景

陽春

撮影 武市通治



水仙と民家

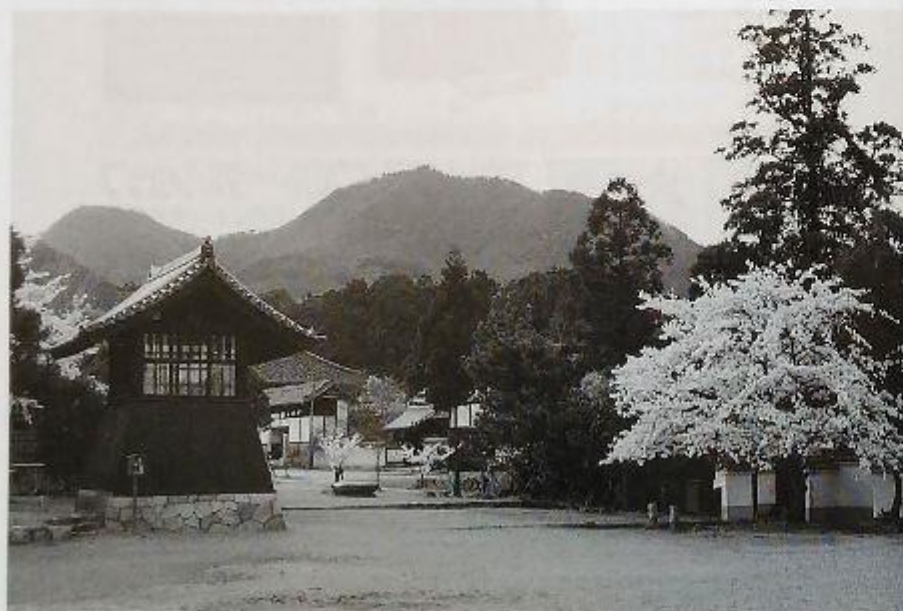


春の小川



安土城址より西湖を望む

角谷 信昭



桜の当麻寺から二上山を望む

三浦 弘幸



高野山より西山連山夕影

角谷 信昭

●目次

表紙：松田敏男「小仙丈尾根より北岳を望む」(南アルプス)  
 ●作家プロフィール ●1943年、東京都生まれ。早稲田大学卒業。1957年より山岳雑誌「山岳」の編集者。『南アルプス』、『北岳』、『小仙丈尾根』、『東京キャパリー』(著、他) 東京山に野に生きた日々、日本山岳会編、一等二条学芸会賞、大衆文壇賞の受賞者

新時代 8冊 関西の山 95年3・4月 隔休第21号

紀行	エリア 別研究	ガイド	アウトドア・ライフ入門	その他
土曜市と三國ヶ岳 三十三間山 三ツ峠山 伊予谷より伊予山 道徳山から伊予山 富士原山 近江川から見る美濃の山々 雪の里の山々 谷山から眺まると、マツノ ① 絶壁の岩壁尾根から伊予山 ② 幻の池を巡る・伊予山主峰探険 「一紀一」を歩くの「花田」から伊予山 八丁平・オダの坂峠から伊予山	松永 真一 西尾 明彦 伊藤 浩一 高橋 謙 豊田 弘子 藤野 孝一 福井 賢治 坂本 健治 松田 敏男 岩野 明	松永 真一 西尾 明彦 伊藤 浩一 高橋 謙 豊田 弘子 藤野 孝一 福井 賢治 坂本 健治 松田 敏男 岩野 明	火おこし法 二名 貞日 市川正次朗 小泉 賢純 松下 茂	野の花園歌(他) 運搬 山岳登陸(第5回) 水戸峡の伝説(他) たのしい山歩き・尾瀬雑談(他) 一歩、足を延ばして 沿線ハイキングガイド サレヒスチーオン せせらぎ
80	78	78	11	80
編纂後記・広告案内	86	92	90	
77	72	88	24	
70	68	66	64	60
38	56	53	50	47
42	34	30	26	20
18	14	12	10	4
2				

●グラフィック

春が来た……… 撮影 土井 収 文 松永 真一  
 季節の衣裳(湯巻) 武市 雅治  
 地名を大別しよう  
 家族で歩く山登り

●巻頭言

このたびの「兵庫県南部地震」による被害者の方に心よりお見舞い申し上げます。

一月十七日の三朝、私の家でもひどい揺れに襲われました。再び起きてすぐテレビを見ました。神戸は震度4、京都・彦根・豊岡は震度3、大阪は震度2、と発表されましたが、これほど強い揺れを経験したのは初めてでした。近鉄と京阪は動いていましたので普通通り通勤して仕事をしました。帰宅してからテレビを見て、阪神間の甚大な被害に驚かされました。

関西を中心に、会員2000名以上の安否が気つかわれ、特に被害の大きい兵庫県の皆さんが心配です。この「関西号」が無事、会員の方全員のお手元に届きますことを祈りながら編集しています。

一日も早く復旧して、また明るい町が戻ってくることを信じています。道路や鉄道の復旧も今のところ確かな見通しがついています。また、3・4月の山行計画は当初の予定通り発表して、実施したいと思っています。ぜひ事前に確認をお願いします。

新ハイキングガイド(代表) 村田 智彦

# 自然を歩く仲間です。

## 早春の山を思いっきり

### 満喫してみませんか!



OD BOXオリジナル/  
 OD\$35TWIN35  
 ¥12,000  
 OD\$45TWIN45  
 ¥14,000



発売以来、形を変えることなく愛好者を増やし続ける、多目的中型ザックです。私達スタッフが山行の経験を基にデザインしたS字型ショルダーベルトが特徴です。背負いやすく体にフィットする事にこだわりました。

その他、OD BOX各店には登山杖・杖・ウェア等の50年モデル製品が格安で入荷中。皆様のご来店をお待ちしております。

各店での新ハイキング・メンバーズカードをこの表示の方向には、OD BOXメンバーズ価格でご提供。

遊	衣	自然で暮らす。
登	食	
CAMP	住	

### アウトドアライフのトータルショップ

OD BOXのコンセプトは「自然と遊ぶ素朴な生活」。自分の好きなことで自然とふれあふ。「登山」の楽しさを味わって、もっと自然と向き合いたい。OD BOXはそんなあなたをサポート、一年中アウトドアのお話です。

過半数でもお求めいただけます。お気軽にお問い合わせください。  
 FAX: 05-212-9811 (10時~18時)

フロアが変更してさらに見やすくなりました。

- 4F MTB・ロードレーサー  
ランニングシューズウェア
- 3F テント・テラフレック  
登山靴・登山用具
- 2F 登山・アウトドアウェア
- 1F スポーツ・ドラッグストア  
アウトドアウェア・雑貨
- B1 ダイニング・旅行センター



〒652 大阪市中央区西船場2-10-24  
 TEL 06(212)9898  
 定休日: 水曜・日曜  
 営業時間: 10:30~18:00



### 地名を大切にしよう

西尾 寿一

伊勢神宮の20年毎の遷宮の例を引くまでもなく、日本人は常に新しいものに興味をひかれる国民性であるらしい。常に新しいものや事情を尊ぶことは、旧態に新しい血液を注入し若さを取りもどす意味があり、再生を願う農耕民族のリズムがある。

農耕社会では、作物は主に春に芽吹き、冬に死を迎えるが、生と死が絶えず循環することによって完全な滅亡に至ることなく、永遠に続く生命を維持している。

新しいものを積極的に受け入れている社会では、古いものや伝統といったものが忘れられやすい。原生林などの自然や古い街並み保存に理解が乏しいのはそのせいでもある。

地名をそうした国民性の確立となつて、改名・変名が盛んに続けられている。

改名は古代からあり、時の権力により符号化・一字化が通達されている。その典型が「世」は悪しに通ずるというので、「世」又は「世」にされてしまった。吉原や青田は本来は「世原」「世田」であったはずである。

為政者の語呂合わせ趣味の結果、この国では絶え間なく改名・変名が行われ、元の意味が不明となつた地名が無数に存在する。

地名に歴史であり、その地名が正確に伝えられていれば、その地名から昔の状況が考古学の出土品のように理解できるのである。もし飛鳥や嵯峨といった地名が改名されたら、どういふことになるかを想像すれば、その野蠻さが分かってもらえると思ふ。

各地で住宅団地が出来て、昔からあった地名を消滅させた「何々台」とか「何々丘」とかに変えてしまった。奈良県北部の団地もひどい改名が行われたが、宇治市の南隣町も元は「蛇塚」であった。蛇塚町では売れないので伏見の別荘大屋敷の南という意味で「南隣町」の名ができた。その後周辺では南隣台とかの町名も発生している。南隣町のある小倉は、元「巨磨」で宇治川、鴨川(加茂川)、木津川の合流する巨磨池という天然のダム湖だった。その湖に集まる水鳥の休む森林が蛇塚で、現在の南隣町である。

小生の住んでいる伏見橋山で「猿山」が拡大され、今ではかなり広範囲に使われている。新聞折り込みの住友不動産に、こんな場所までが猿山だったのかと思ふことがある。しかし猿山という地名自身それほど古いものではない。

地名改変は身近な所で次山発生しているから、全国となるとその量は空想らしいほどである。

東京都港区は「麻布」ばかりとわつたし、田園調布を福島の宇津姫藩者が使用しようとしたところ、当の田園調布側の抗議により「田園町」にしたという笑い話に近いものである。

旧ソビエト時代には、ベチルブルグがレニングラードになったが、体制崩壊以降元に戻されていき、コーカサスの山名にも「コカチニス」や「ベチル」が使われ、インドネシアでも「スカリン」が使われた。

革命や新体制を取り入れた国では、過去の歴史を否定する傾向があり、体制が変わると再び元に戻すことを繰り返している。

ビルマやセイロンなどの国の名も変わった。

### 随想 (山のエッセイ)



が激いほど多く、それが激しい社会は、安定感が無く、民は苦しんでいる。国名や山や川など、その国の根本となるものが改変される場合は、なおさらのことだ。

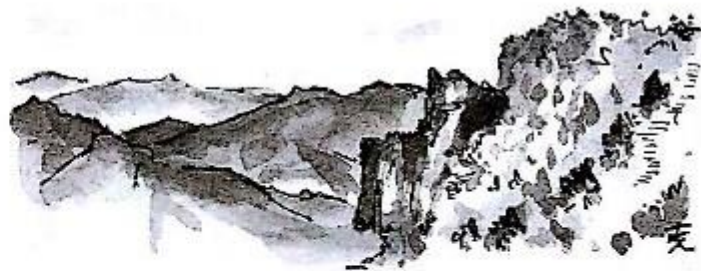
山岳界においても、地名などは、その重大な意味を見逃して軽々しく扱っている場合がある。山名なども現存確認しているものであつても再調査で正しいものが発見できる場合がある。

今西郷司さんは、若いころ「山嶽三十山」を決定して山名も調べておられるが、50年以上も以前に調べた山名ではあるが、満足できないから固定的に考えないで再調査してほしいと思つておられた。地名とは、そうしたもので先人の業績を尊ぶ精神は当然のことながら、それを顧みずにすることは進まず。別の角度から調査する視点が大切だと思ふ。

一般に流通しているもの以外は、その地名が最初に使われた文献又は調査した人物名を記述する必要がある。

これはその人や文献を尊重する意味もあるが、もっと大切なことはその地名が正確であるかどうかである。地名を調べた人は、その経緯を記述しては、それが分かれば別の角度からの調査も可能となる。そうした複数の調査によって正確な地名が求められる。

登山者は登る山に関してルーティンと細かい調査をするが、地名となると無関心で伝説のたぐいを信用してしまふことが多い。本誌に於いての記事が多くなつたことは悪いが、敬請する地名などは明らかに特定の出版物からの引用であるにもかかわらず、出典を明記することを怠られているのは、これ以前に正確な地名を確保するうえで惜しまれてならない。



### 家族で歩く山登り

伊澤 明恵

私は、家族で共通の趣味があるのは、とてもすばらしい事だと思います。そのひとつがファミリー登山です。そして、こんなすばらしい共通の趣味を持たせてくれたのが、お父さん、お母さん、そしてケンカもよくする弟です。私は、こんな家族が大好きです。

お父さんは半牛時代から山登りや、キャンプ等を友人と楽しんで来たそうです。お母さんと結婚し、私が生まれた2年後に弟が生まれ、私達が幼かったころはキャンプがほとんどでした。私が幼稚園、弟が2歳半の頃富士山の裾野でキャンプをしたときに富士山に登ったのが、私の足で登った初めての山登りでした。その時のことは、よく覚

えています。お父さん、お母さんを見ながら、お父さん、お母さんが話してくれました。私達が幼かったので高山病を心配して、八合目まで登り引き返したそうです。

その後も、お父さんは大好きな山登りに私達を連れて行ってくれます。お父さん、お母さんは、私と弟を連れ、私達が歩くペースに合わせて一緒に歩いてくれました。

お父さんはいつも、「山登りは早く歩くものではない、自分のペースで歩き、自然を楽しむながら最後まで歩くものだ。」と、私や弟に教えてくれました。春夏秋冬、一年中山登りに出かけます。ふだんは近くの山で日帰りの山へ出かけ、夏休みは遠くの山へ出かけ、山小屋で泊まったり、テントで泊まることもあります。

そんななかで私が一番印象に残っている山は白馬岳です。

この白馬岳は昨年の夏、家族4人で登りました。夏山で雪が残っている山はこれまで何回も登りましたが、白馬の大雪山は登っても、登っても雪がいっぱい、アイゼンをつけ、一歩一歩慎重に進み、たつぷりと雪の上を歩きました。登りかけは雪がいっぱい、私も弟も大喜びでしたが雪の上は風が冷たく、息をするのが苦しいほどでした。でも、時々ガスがはれ、上のほうに青空と山の姿が見えると、白馬岳が「頑張っただけで早くおいで」と呼んでいるようでした。

大雪渓、小雪渓を無事に過ぎるとお花畑がありました。私が山の好きな理由のひとつは高山植物です。花屋さんで並んでいる花のようにハアではありませんが、厳し自然のなかで頑張って咲いている花が好きです。

一生懸命登って花畑に出会ったときは、登ってきて良かったと思います。このときは雷鳥の



### 随想 (山のエッセイ)

親子がすぐ近くまでやってきて可愛い姿を見させてくれました。頂上小屋でテントを張り、風雨の中でしたが寝ていたのがぐっすりと眠りました。

白馬岳の頂上日、2日目は曇り空です。ガスが多く視界は悪いが時々晴れて素晴らしい眺めでした。こんな高い山の中に温泉があってびっくりしました。この温泉は、冬は雪崩がおきてつぶされるので、夏だけ営業をしているそうです。まわりには雪がたくさんあるのに、たつぷりの湯があり寝れがとれました。

白馬岳の山登りでは、お父さんに言われて食事のメニューは私が考えました。手間がかかるものはなるべくおぼろげにたりのりで済ませましたが、そのとおりの食事を作ってくれました。でも、実物の缶詰は重いけど、私が持って上がり、テントの中で食卓を設けました。とって

もおもしろかったです。

夏に雪が残っている山に登ったのは、中央アルプスの宝剣岳や加賀白山等です。とくに白山は二度目にして、やっと頂上に登ることができました。一度目はすばらしい天気にも恵まれ、寒空で夕日が沈む時、あまりの美しさに思わず「パンサーイ」と両手をふりあげて叫びだす人になりました。私も、わけのわからないうちに一緒に両手をあげていました。その夜、トイレに起きると外へ出ると、手でつかめそうなぐらに近くに、星が降りてきたように照りました。しかし、翌朝の光を早く見ようと早起きをしたために登頂をおこしてしまいました。雪登り下山しました。

一度目は雨の中を登り、天気は良くなり、やっと二度目に頂上まで登り上げました。

お父さんは、いつもこう言います。「山は登りへんで、無理したらあかん、また来たろええ」

と。

山を歩いていると、いろんな人に出会えます。知らない人達から「がんばりやう」と、はげまされます。雪の積もった綿向山では、カモシカの親子に出会い、私達にあいさつをしているようでした。

家族でおしゃべりしたり、しりとりゲームをしながら歩き、頂上についたときの感動や、何となく心が素直になり、また別の山に登りたい気持ちになります。

登山口から頂上まで一歩一歩自分の足で登りされる事が幸せだと思います。

私は、来年から中学生になります。勉強やクラブ活動等で今まで以上に忙しくなると思いますが、いつまでも家族で山登りを楽しみたいと思います。私は、こんな家族が大好きです。

# 土蔵岳と三国ヶ岳

高 雄 潔

湖北

土蔵岳山頂のプレート



**土蔵岳**  
土蔵岳は滋賀県湖北の山である。3年前の1991年4月初め、春休みに娘と二人で、金栗原から土蔵岳まで1泊して縦走し、かつ、JR長良川駅からバスで高山経路で登ったことがある。たまたまその時、琵琶湖研究所のTさんという方に逢って、白谷の登山口まで車に同乗させてもらった。

琵琶湖周辺の積雪量調査のため金栗原にやってきたと云うTさんの話を聞き、山登りは景色や動物に出会ったり、自然に接する楽しみで出かけているが、系統たててそれらに接してみれば山登りも学習の対象になるのかもと思っただことがある。

キーで頂上に向かい、我々は中津尾根から頂上に向かった。金栗原の頂上で再会したあと、「時間と根根上に登るがあれは土蔵岳まで歩くつもりです」と頂上で別れたが、結局この時は八草峠から先で雪がなくなり峠から金栗原の集落に下った。この先はまた次の雪のある機会に逢うように思っていたがいつの間にか今回になってしまった。

土蔵岳の標高は1000.8mがあるが、その北に1045mの三角点があり、周辺にも土蔵岳を照えるピークがあるので、金栗原から北に続く山頂の稜線を探しても、土蔵岳の山頂を運び出すのは容易でない。しかし、滋賀、岐阜、福井三県の県境に位置する三国ヶ岳までの間で地図に山名が記されて

いるのは土蔵岳だけである。

土蔵岳には、JR木之本駅から金栗原行き10分のバスに乗る。乗客は私一人だけであった。金栗原の集落は以前来た時と変わっていなかった。バス停から少し先にあるバスがJターンする広場まで乗せてもらう。

今日は巨峰りなので背中のチャックも重いし、天気も良いので足が軽い。土蔵谷の出

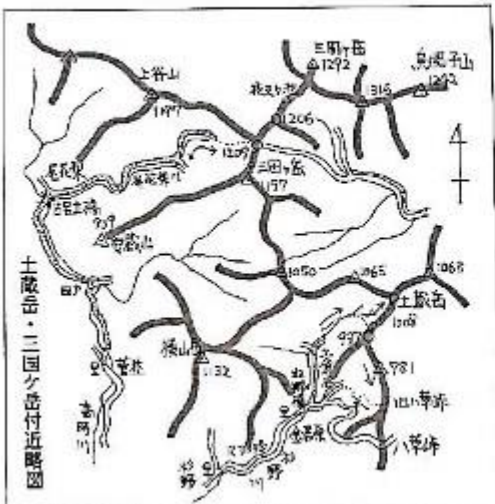
口に架かる出穂橋を渡ると、谷の入り口に立て札が立っている。立て札にはこの登山が昭和40年まで探検していた事が記されている。

もうしばらく林道を歩くことになる。土蔵谷の左岸に沿って進むと、右側に山の断面全体が要領のようにコンクリートで固められた登山道に出る。短々とした林道を先

に進むと、尾根の出っ張りを回り込んだ所で、土蔵岳と横山岳から出ているほぼ同じような水量の谷が合流している。橋の手前を右側から入ってくる土蔵谷左岸の踏み跡を登る。この辺りから雪が出てきた。

しばらく登ると谷の水がコンクリートのトンネルから流れ出ている場所に出る。比較的平坦なこの辺りの谷筋は、登山の道が通ったところである。ここを通りすぎると、腹根の下に出る。左岸から右岸に右を挟んで渡り、腹根の上に出る。ここから踏み跡は右岸に沿っている。谷が北から少しづつ奥に曲がる頃、谷筋の両側の雪が少しづつ厚くなる。谷沿いに歩きつづけてきた。

ここを通りすぎると、腹根の下に出る。左岸から右岸に右を挟んで渡り、腹根の上に出る。ここから踏み跡は右岸に沿っている。谷が北から少しづつ奥に曲がる頃、谷筋の両側の雪が少しづつ厚くなる。谷沿いに歩きつづけてきた。



ここを通りすぎると、腹根の下に出る。左岸から右岸に右を挟んで渡り、腹根の上に出る。ここから踏み跡は右岸に沿っている。谷が北から少しづつ奥に曲がる頃、谷筋の両側の雪が少しづつ厚くなる。谷沿いに歩きつづけてきた。

支尾根に取りつくことにした。

残雪のある急斜面の灌木の間を、1時間程土蔵岳を左に見ながら二汗かいて登ると、P937の少し北の稜線に出た。今日は一人かと思っていたら、稜線には輪かんの跡が山頂に向かって残っている。八草峠から登ってきたようだった。

稜線からは、八草川をはきみ南に真っ白な、金栗原から白谷川の稜線が遠望できると沈むことが多いが、輪かんの着けていると沈むことはない。登ってきた土蔵谷がはるか下になった。

土蔵岳の頂上からは西方にブナの木の間に横山岳が見える。北方の三国ヶ岳はP1065.4の陰になり見通せないが、鳥槍子山はよく見える。頂上でしばらく休み、もと来た道を戻ることにする。登ってきたポイントを通りすぎ、P937から稜線を南に八草峠に向かう。灌木の間をかくぐりながら下る。旧八草峠付近まで続いた踏み跡をここで見失ったが、踏み跡の主には会えなかった。峠から西側の幅の広い尾根を1時間半ほどで林道に出た。

再び国道303号線に出て金栗原に向かう。時間も早かったので、おみやげに道端に顔を出している路のとうを摘みながら横



土蔵岳より金谷～白倉谷を望む

山頂の登り口である杉野まで歩く。悠々の一日だった。(平成6年3月21日歩く)

### 三國ヶ岳

2週間前に金居原から土倉谷をつめて土蔵市に登ったとき、三國ヶ岳を遠望して、4月中旬なら積雪に雪が残っているようなので頑張っ歩いて、日曜りで頂上を踏めそうな気がした。



三國ヶ岳山頂(後方は上谷山方面)

前にある。この辺りの山は残雪期が最も登りやすい。靴も杖も足指はすべて雪に覆われ、春霞の空の下やってくる人も少なく、ルートを選ばず、緊張感もまた格別だ。雪の敷山もまたアルプスと違、た魅力がある。頂上には三國ヶ岳と書いた小さな木片が枝に掛かっていた。今日もまた快晴、登ってきた足根には点々と輪かんの跡が頂上ま



三國ヶ岳より手前のP1206と遠く三國ヶ岳を望む

で一直線に続いている。自分の歩いてきた跡だ。ここからは上谷山に続く江越国境の展望がよい。

山頂から離れたい、時間は13時35分。雪並から延々と林道を歩いて、滋賀県最北の三國境の山頂に登れたことが、山深さを味わいながらまた格別の感動があったのかもしれない。周囲は茫々たる山並みが続く。広くもない山頂を熊のようにぐるぐると何

滋賀県側から三國ヶ岳に登るには、JR本之木駅よりバスで高島まで入り、そこから林道を延々と歩くことになる。日曜りの山登りとしては手応えのあるコースとなる。

本之木駅の構内でストープの前に並べてある椅子に座り、8時10分発の洞寿院行きのバスを待つ。乗客は今日も私一人だけの貸切りバス。運転手から今の時期はクマが出るから気をつけて登るようにと少々おどろかされる。雪並の集落を過ぎて、尾羽梨に向かう高時川林道の分岐点で降りしてもらう。

帰りは本之木駅行き最終バス18時30分間に合うよう、13時30分まで歩いたら、頂上を踏めなくても途中から引き返そうと思いつきながら、左岸に沿った林道を上流にある尾羽梨をめざして歩き始める。

小原で一日石岸に渡る。田戸、鷺見の集落を過ぎ、古宮立橋で再び高時川を左岸に渡ると、ここから10分程で尾羽梨林道の入りにある展望が見える。まだ屋根はしっかりして人が住めそうである。ここまでは休まず歩いてきたので一息入れる。車で来ればすいぶん楽まで入れそう。林道は右岸に沿って登る。尾羽梨川の水

量はなかなか減らないが、標高が高くなるに従って谷沿いに雪が出てくる。林道も荒れ左の沢から土砂が押し出されている。

最近になって江越国境の白い積雪が見えてきた。国土地理院、美濃川上(昭和五十年度版)には尾羽梨林道から続いて滋賀が谷を詰め、標高850m付近に達し、ここで谷と分かれ、北にある江越国境のP965に繋がっている。この南斜面は雪が消えていた。

沢を左岸に渡って三國ヶ岳に直接取りつくと、尾根の北面には積雪が切れ目なく頂上までありそうなので、今回はここで沢を渡り急なこの尾根に取りつくことにした。

P965が目の高さになる頃、ふり返ると、さきほど渡った沢を隔てて上谷山がどっしりと横たわっているのが見える。この辺りまで来たわっという傾斜もゆるくなり、三國ヶ岳の頂上が目につくまで歩いた。数年前、福井県の今庄から、日野川上流倉ノ又谷を経て夜叉ヶ池、三國ヶ岳を登り、それから三國ヶ岳に登ろうと積雪を南にP1206村へ行きフッシュの中、山頂を目指したことがある。ほんの少し南に歩いたところで、とても前に進めそうになく断念したが、今このP1206が、すぐ目の

度か回った。

帰りは登ってきた尾根を一気に下る。林道歩きもそれほど長くは感じなかった。雪並の集落が見えた時、何日かぶりに人里に下ってきたような気がした。足は少々疲れたが心ゆくまで楽しめた一日であった。(平成6年4月10日歩く)

### 参考タイム

土蔵岳 金居原8・42 | 出郷橋9・00 | 尾根取付き10・20 | P937 11・30 | 土蔵岳12・10 | P937 12・40 | 旧八草峠13・35 | 林道13・55 | 金居原14・55 | 杉野16・00

三國ヶ岳 雪並8・35 | 鷺見9・40 | 古宮立橋9・55 | 深谷橋11・20 | 三國ヶ岳13・25 | 尾根取付き13・40 | 深谷橋14・25 | 尾羽梨15・40 | 雪並17・15

△地形図 2万5千 美濃川上





## 若狭湾を望む

# 三十三間山

さんじゅうさんげん

## 妻鹿弘子

## 若狭

三十三間山の展望地にて



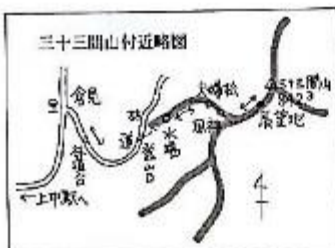
「青春はさっぶがまた余ってしまった。さ  
てどこに行こうか。ススキの山がいい、出  
来れば海が見える山」と欲張った注文が付  
いて5人で三十三間山(842・3m)に  
出かけることになった。JR京都駅発7時  
6分湖西線近江今注行き、終点でJRバス  
小浜行きに乗り換え9時上中駅に着いた。  
駅前を少し戻った所のタクシー会社にはタ  
クシーは一台しかなかった。ここより倉見  
に向かう。(16分2470円)

林道を10分程歩いて登山口で軽朝食を  
とり、9時45分出発。前日雨でも降ったの  
か道も濡もしっとり濡れ、風はひんやり  
と肌心地がいい。やがて最後の水場に到着、  
水はさほど冷たくなかった。ここで沢から

藪を抜くと笹は灌木の林に変わり、あっけ  
なく山頂に着いてしまった。登山口より2  
時間、まあまあペースだ。

林の中でお弁当を広げる。静かだ。こん  
なに良い山なのに本当に登山者の少ない静  
かな山だと話し合っていると、ガヤガヤと  
人の声がして50数名という「京都下京山  
会」の大パーティーが現れ、内心は「ウェーと  
群易するが、新ハイの大パーティーもさっ  
こんな気持ちも人々に与えているのだろうか、  
お互いさまかなと思いたくない。

ゆっくり休憩し、山居会が発した頭を  
見計らって頂付きまで下る。右に若狭湾が  
見え、左に三重山、武奈ヶ岳(比良の山)



な)の展望を羨し、  
写真を撮っ  
たりしてし  
ばらく遊  
南に広がる  
な草付きの  
尾根が延び  
ているが、  
地図に載っ  
ている道は

削れやや急登にさしかかる。やたら蒸暑く  
なり、フーフー言いながら杉林を登る。や  
がて北斜面が浅まされていて展望のよい尾  
根に出た。あれが三方五湖、こちらが若狭  
の海と昔ながら騒いでいるが、私は眼鏡が  
壊れてしまい、そうであるような無いよう  
な、何だかもう一つはっきり見えないのが  
ちょっとびりくやしい。林が切れて主尾根が  
明るく見えてきた所に、「風神、KAZA  
KAMI、山頂まで二十五分」の標識があっ  
た。標識を10分程入ると着むした石塔があ  
り、疫病平癒の縁起が悪いのである。ここま  
で誰にも会わなかった。今日の登山者は私  
達だけかと思いつながら、ススキ、ナアシコ  
の咲く草付きの主尾根を行くと、山頂直下

すっかりブッシュに埋もれ、とても歩けた  
ものではなさそうなので往路を下ることに  
した。水場登山居会に追い付いてしまっ  
たので一行の山居を少し離れた所で待つ。

静かになった沢で汗を拭いて、小さ  
な山椒魚を二匹も見つけた。ここまで来  
れば慌てることはない。丸太の橋に渡ら  
んで杉林の間にぞくぞく空に見入る。沢  
からの風は涼しく木漏れ陽はやさしい。な  
にもピークを踏まなくても、こんな所で一  
日寝ているのも大団円だ、と寛ぎ性には不  
可能なことを考える。

14時30分山居のバス停着。ここでタクシ  
の電話券を聞かなかったことに気づいた。  
バスは16時46分まで無い。アイスクリーム  
でも買いたが電話券を見せなくてはおうかと  
近くの店に立ち寄る。奥さんが「呼んでお  
げますよ」といろいろ電話してくるがど  
うしても連絡が取れない。「番号を覚えて  
下さればしばらくしてから電話しますから」  
と言うと、御主人が、「じゃあ駅まで送り  
ましょう」と言って車を風き替えられた。  
恐縮して断るが、「すぐそこでですか、  
ついでの川もありました」と、「一台では  
乗りきれないでしょう」と奥さんが乗車車、  
御主人が軽トラを出して下さったので好意

に甘えることになった。

三十三間山は良い山でしょう。春には  
いつも子供達と登るんですよ、あっちの沢  
には山菜がいっぱいあって、おじいちゃん  
の若い頃はカタクリもいっぱいあったぞう  
で……」と奥さんの本当に楽しそうな故郷  
の山自慢に聞き入っているうちに上中駅に  
着いた。お礼にタクシー代程度を差し出す  
が、タクシーではないからと、とうとう受け  
取らず帰ってしまった。見ず知らずの  
私達にあまりの親切さにただただ感謝して  
見送る。おかげで15時40分発のバスに充分  
間に合い、近江今注駅には16時20分に着い  
た。

三十三間山はコースの静けさ、展望の雄  
大さ、それに人情の厚さ、と季節ごとに足  
を運んでみたい若狭の名山であった。  
(平成6年9月6日歩く)

### ☆コースタイム☆

登山口(1時間) 夫船松(1時間) 三十三  
間山(1時間20分) 登山口(20分) 倉見バ  
ス停

△地形図▽方5千500 新川

5方1期川

三ツ峠山

1786

浅野孝一

「三ツ峠は郡内第一の名山」であると武田久吉は『冬の三ツ峠』の紀行の書き出しで述べている。郡内とは山梨県の南・北郡留部一帯のことで、甲府盆地を中心とした県下は国中と呼ばれている。

『日本山録』は「三嶺山(別稱三峠山) 甲斐国南郡留部ノ北方ニアリ、東、桂村ノ春地コリ凡、一里十八町ニシテ其山頂ニ、連ス、標高五三、八百九十一尺、」又『甲斐国志』には「……兼ハ奇巖ニカトシテ三峯ニ秀ツ故ニ三峠山ト云、巖上ニ小洞アリ、三峯楯製ト云……」と記述されている。

三つの嶺とは御東嶺山(一七七五尺)、木紙山(一七三三尺)と三ツ峠山(御東嶺山)のことである。登山口に宛胎上人の文字が

三ツ峠山山頂より富士山を望む



達磨石に梵字を書いた宛胎上人とは空観のことである。

三ツ峠登山道は表登山道と裏登山道がある。最も近いのは裏口で、御坂トンネル入り口から右へ車道をたどった三ツ峠登山口からで、約一時間30分もあれば山頂に達するが、富士急行河口湖駅から登山口までタクシーを利用することになる。

表口登山道はJR中央本線の大月駅で高

士急行に乗り換え、三ツ峠駅から歩く。駅から下野地の人家の間を歩き、精杓川沢を渡ると車道は登り坂となり、大山流神社の前を通り、曲がりくねった車道の終点に達すると達磨石の前に着く。ここから細い



達磨石

登山道となる。山の斜面を登ってゆくと眼前が広がり、崖・足根の上に富士山が見えてくる。段ノキという地点にベンチがある。ここからこまかなジグザグを登ってゆくと小さな広場に出る。八十八大師で山の斜面にたくさん石仏がある。

登山道はゆるやかとなり、前方に山頂直下の岩壁が見え、こわれた白雲汗跡をすきると御東岩の基部の水平道を歩く。つき当たった斜面を左へ登れば三ツ峠山左の前右へ登ってゆけば四季山荘の前に出る。山頂はそこから右上に登った所で、富士山から沢沢山境、西方には御坂山嶺と南アルプ

三ツ峠山付近地図



ころばぬ先のピッケル

アイゼンあれば愛いなし!!

mont-bell → DUNLOP LOWE'S HANWAG

SOLOMITE → MARMAC charlet CAMP

あったかーい肌着・フリース・上着をそろえ、貴方の冬山をサポートします

営業時間 12:00~20:00

定休日 月・火曜

吹田市内木町1-23-7

TEL 06-319-0597



CAMP-HIKE-CLIMB  
**TOMY WALK**

# 山の専門店マウンテントラベル

平成6年7月

## 大阪駅前第4ビルに 大阪支店オープン!

～風景に囲まれて素晴らしい旅との出会い～

### ホテル・エベレストビューとともに25年

世界最高所に建つホテル・エベレストビューのお部屋からは、エベレスト、ローチェなどの雄姿が間近にご覧いただけます。

- ホテル・エベレストビューと  
アンナプルナハイキング8日間  
4/26、4/30、5/3出発 345,000円
- エベレスト街道 世界最高峰と  
シェルパの里8日間  
4/26、4/30、5/3出発 345,000円
- カトマンズ・チトワンサファリとポカラ  
8日間  
4/26、4/30、5/3出発 298,000円

他、長期間、登頂などのコースも多数ご用意いたしております。

### オーダーメイドオリジナルツアーをどうぞ

山の仲間で作るオリジナルツアーは、信頼と実績あるマウンテントラベルツアーデスクまでご相談下さい。旅行のプロが皆様のお手伝いをいたします。

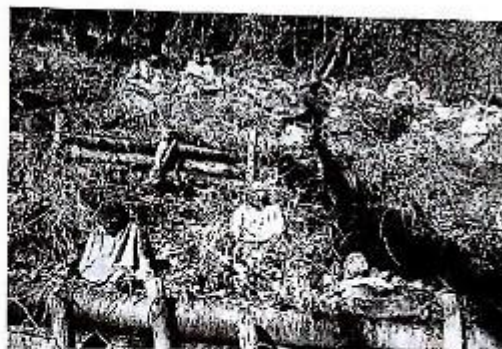
ネパールでは、当社現地法人トランス・ヒマラヤンツアーのスタッフが、皆様をお待ちしております。

資料のご請求は  
☎0120-777802  
●全国どこからでも無料です

春の特選コース：アンナプルナ・ダウラギリ展望トレッキング228,000円より、エベレスト街道とシェルパの里11日間338,000円より、チベット高原・ラサからカトマンズ13日間548,000円より、マレーシア・キナバル山登頂5日間198,000円より、この他各方面を用意しております。

**マウンテントラベルツアーデスク**  
主催 ヒマラヤ観光開発株式会社 運輸大臣登録一般旅行業1014号

東京/〒105 東京都港区新橋3-26-3 ☎03-3574-8880  
大阪/〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500 ☎06-346-0360



八十八大峰の石仏

スの山々が見える。日帰りの場合は南へ木無山から河口湖方面へ下るか、裏登山口となる。

しかし、富士山の展望は早朝がすばらしい。それ故山頂の山小屋に泊まり、朝の富士山の眺めを堪能してみたい。

二日目は三ツ峠山から北方へ山道をたどって清八峠に出てみよう。三ツ峠山頂から大きな電波塔のある御妻原山へ登る。ここか

ら右へ千段ノ滝を経て都留方面への登山道が分かれている。急な斜面を下り、途中の岩の斜面は慎重に通過し、斜面から右へ回り込んで山稜をたどって茶臼山に登る。ふりかえると富士山が樹林から見えてくる。大轡山頂は明るく、御坂山塊や本社ケ丸が見える。

鉄塔のある所は宝八丁峠で左手に車道がある。清八峠へはさらに山稜を登り右の斜面をたどる。途中2か所のガレにはザイルが張られてあるが注意して通過したい。

清八峠は小さな広場となっていて、右へ山稜をたどると本社ケ丸へ約1時間で往復することが出来る。北方には奥秩父や大菩薩連嶺が見える。峠から北の峠路を下ってゆく。冬期はこの斜面が凍結するのでゼアアイゼンを使用することもある。

下り着いた所は奥野沢で、対岸に渡ると荒れた車道があり、しばらく行くと舗装された車道となり、右に橋を渡った所は東山梨変電所で、立派な車道を過分に向かって歩く。国道20号に出たら右へ黒田の人家をぬければ笹子駅に近い。

日の長い季節は日帰りも可能であるが、山頂の展望を求める人は一泊したいものである。(平成6年11月9日〜10日歩く)

### △参考タイム

富士急三ツ峠駅(途中まで車に乗る)ー  
遼原石10・45ー股ノノキ11・30ー50ー八十八大峰12・05ー35ー三ツ峠山14・30(清三ツ峠山15・30ー三ツ峠山8・40ー55ー茶臼山10・05ー20ー大轡山10・35ー宝八丁峠11・00ー清八峠11・25ー45ー奥野沢車道13・05ー東山梨変電所13・20ー追分原野稲村神社14・00ー笹子峠14・30  
※この山行には4×5のカメラを持ってゆき、所々で撮影したので少し時間がかかりすぎています。  
△地形図V2方5千ー河口湖東部・笹子

### 毎号お求めになりたい方へ

「新ハイキング別冊関西の山」は配本の都合で、書店で毎号は入手困難の場合があります。

確実にお求めいただくには、前もって書店に毎月ほしいと「購読予約」をされますと、どの書店でもお買い求めいただけます。假数月の20日ごろ(隔月刊)の発定です。

## 野外塾

### ● 火おこし法

関西アウトドアスクール  
校長 二名良日

「春は名のみの 風の寒さよ……」と、歌の文句にもあるように、春まだ浅い山野の風はなかなか冷たく、まだまだ火の気の恋しい季節です。

入山・下山の道すがら、お寺やお宮の落ち葉を焼く……(白鳥ゆ・白葉天) というような風流もまた、アウトドアでの「焚き火の野趣・醍醐味の一つです。」

こうなると、百円ライターや自動点火コンロの一番若火では、いかにも味気ありません。ご先祖様たる神明様、や北京旅人の大衆明に立ち返って、万一マッチやライターが無くて、そこらにある枯れ木などを使ってできる、原始的な「火おこし法」に、遊び心的にチャレンジしてみても、一興でしょう。

というところで、今回は「火おこし法」のいろいろを、整理・紹介してみよう。「人類創生」という映画で見たのですが、何も無い自然の中で、火をおこすということとは、原子力やコンピュータを発明するぐらいに、大変なことでした。地域や時代

によって様々な方法が考案されていますが、最も原始的に世界各地で行われているのが、摩擦熱を利用するやり方です。

このアイディアの起源は、強風などで木と木がこすれ合っただけで自然発火した山火事などがヒントで、この方法の素材としてよく使われる樹木の堅皮は、火の木、だったのではないかと……などと、言われています。「摩滅法」にも、発火段階的に何種類かのバリエーションがありますので、それぞれについて、そのポイントを要約します。

- ① ノコギリ法  
固定した木片をもう一個の木片で、ノコギリで切るような要領でこする。(ファイリピンなど)
- ② 火ミノ法  
固定した木に、線維を剥き、木片先を押しつけるようにこする。(オセアニアなど)
- ③ 竹ヒゴ法  
樹木の片削を手製にし、間に火口(着火物)をはさま、その下に竹ヒゴやワッフルを回して、両端をひっぱりする。(バブアなど)
- ④ キリモみ法  
固定した白木に樹先を立て、キリモみ状に押し当てる。(信州など)

#### ⑤ キリモみ法

キリモみ法の棒を木片で押さえて固定し、棒にヒモを巻き、両端を二人で引きあって回転させます。(オーストラリアなど)

#### ⑥ 弓キリ法

紐キリ法のヒモを、木や竹の弓弦に張り、一人で合理化する。(アラスカなど)

#### ⑦ 舞キリ法

弓キリ法のキリ棒に、ハズミ車木を取り付け、円心効果を高める。弓の代わりに、中央に棒穴をあけた木平板を使う方法も一般的に行われている。(ドイツなど)

このように、「摩滅法」は省力・効率化され、伊勢神宮の儀式で見られるような、舞キリ式発火器に発展しました。(登山道から同様のものが発掘されているように、復元したもので、静岡市教育委員会の、所行しています。)



これらの中で、山行やアウトドアで実際にできそうなものは、ヒモ一本あれば、一人でやれ、効率がよくて扱れない、弓キ

#### リ式が、おすすです。

材料は、大体どこでもあり、枯れた「杉」などがベストでしょう。

- ① 中々らしい、乾いた杉丸火を、ナタで厚さ2〜3cmの板に削る。
  - ② 板端にV字形の切り込みを入れる。
  - ③ V字の頂部に、少し先を尖らせたキリ棒(直径2〜3cm、長さ40〜50cm)を立てる。
  - ④ 棒を少し熱くぐらいいして、弓弦を張る。
  - ⑤ 棒の上端も少し尖らせて、小さな窪みをつけた小木片で、軽く押さえて固定する。
  - ⑥ 弓弦を動かして、棒を回転させると、板と棒の摩擦で生じた木粉が、V字溝にたまり高熱化して、火種ができる。
  - ⑦ 火種を火口(着火素材)によって吹き、燃えあがらせる。
- 以上のような手順で、火がおこせます。原理は簡単、ノフハフも其際によればわかりやすい。一度マスターすれば、どんな場合でも、自信を持って応用が可能ですので、下界でも暇な時は、ゲームマシクとして練習しておくこと、本番で暗いなをアツと驚かせ、楽しむことが出来るでしょう。

「摩滅法」の他にも、発火法はいろいろ

#### とあり、以下それらを列挙しますので、頭に入れておくと、何かの時の参考になるはずです。

- ⑧ 火打ち石法  
顔形部分の切り火、土産品で売っている。
- ⑨ レンズ法  
虫メガネで太陽光を焦点に集める。
- ⑩ ミラー法  
太陽光を、凹面反射鏡の焦点に集める。ザンライターという、小型反射タコッつけ製品もある。粘土面型やオイル型容器に、アルミホイルをはり、ソーラーオーブン、を作ることも可能。
- ⑪ 圧縮空気法  
水穴のない水鉄砲の、の押し棒の先に、モグナなどの火口をセットし、強く押し込み、引き抜くと、先のモグナに火花が……というベナン島の魔法の発火法(水牛の角製)。
- ⑫ メタルマッチ法  
マグネシウムに火花を飛ばす。
- ⑬ 防水マッチ法  
リン付きマッチをロー防水して作ることが出来る。
- ⑭ その他  
電線法(電子法まで、いろいろあります。

# 大峰主稜にかくれた静寂の山

## 伊坪谷より勝負塚山

酒井賢治

### 大峰

大峰山系の勝負塚山は、山上が岳より五番目に至る大峰主稜線上にある1448mのピークから東へ派生する大きな尾根の中心で盛り上がる奇小峰で、標高1246m以上の三角点の山頂が開設されている。

山上が岳の南斜面の傍路道から東方向を展望すれば、白濁谷を始めとする台高山系の山々を遠く望むとともに、左近く上多古川の源流を成す谷上尾根の向こうに、所どころに岩の壁をつけた勝負塚山の岩峰を相見することができる。ここから見れば緩やかな支尾根上のピークにすぎない地味な山容であるが、場所を登え上多古川林道からピラミッド型に聳えるこの山を仰ぎ見れば、一度はその頂上を踏んでおきたい気持ち

ちに誘われるであろう。

奥深い大峰の山々にあって、この山は比較的里にも近く交通の便にも恵まれ、定期バスを利用した日帰り登山も可能である。とは言え指導者はなく、独りにしかないと危れた色テープを求めての踏み跡探索や急峻な尾根登りは、やはり山慣れた人だけに許されるものであろう。

4月16日(土)午前8時半自宅出発、近鉄各線を乗り継ぎ大和八木駅下車、7時28分発の奈良交通バス湯盛温泉(杉の湯)行きに乗る。この一番のバスに乗らなければ日帰りは無理である。バスは近鉄福原神宮前駅、大和上市駅を経由するのでこれらの駅からの乗車も可能だ。吉野川に沿って山

勝負塚山から見た山上が岳



袂をひた走り、9時すぎ川上対の中心地・湯盛温泉に着く。9時10分発の木行き的小型バスに乗り換え、9時30分上多古川河口で下車、すぐ前の橋を渡り上多古川右岸につけられた直流な林道をゆく。

対岸に点在する民家の庭で、狸のほりが春のそよ風をうけて気持ち良さそうに泳いでいた。林道を奥に進むと前方にこれから登る勝負塚山のピラミッド型な威容が仰ぎ見

られる。対岸の新緑の山肌は、山桜やツツシの花が白や赤の彩りを添えていた。

上谷への道を左に分け、山ヌケの工事現場を通過し、約40分で伊坪谷出合いに着く。勝負塚山から東へ延びる尾根の先端が箇所には標高をつけて、上多古川本流に一気に落ち込んでいる。

ここで赤い鉄橋を渡り真っすぐ木梯子を登り、伊坪谷右岸につけられた山道に入る。少し進むと伊坪谷に落差15m程の大きな滝、そして堰がある。古くなった簡易水道設

備を右にみて岩壁のガラ場をゆき、伊坪谷の河床へと下る。

この辺り谷は幅広く開け歩きやすい河床となり、取水用のビニールパイプが張りめぐらされていた。すぐ奥の鉄橋で左岸に渡り渓谷に沿った山道をゆくと、再び深に下り、飛び石で右岸に渡る。左より7m程の滝を伴った板谷が合流する。古い木梯子を登って右岸一際高いところに付けられた山道をゆくと、少しで道は岩壁に阻まれ行き止まりになるが、少し手前左に木に巻かれた赤テープがあり、露岩流じりの道が上がっている。これを登るとすぐ高さ5m程の岩があり、不安定な木梯子と木の根につかまって慎重に登りきる。左下が岩壁になっていて滑落でもすれば一巻の終わりだ。

岩を乗り越えれば、後は急斜面に付けられたジグザグ道をロープや梯子をたいて登り、もう一段高いところに付けられた平坦道に出る。ここで右へ折れるが、左へも先程の板谷を巻くように道が付けられ



た赤テープがあり、露岩流じりの道が上がっている。これを登るとすぐ高さ5m程の岩があり、不安定な木梯子と木の根につかまって慎重に登りきる。左下が岩壁になっていて滑落でもすれば一巻の終わりだ。

低山登山～本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。



とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL06(772)7231

JR天王寺駅  
北出口右へ  
歩道橋渡ってすぐ





勝負塚山東の尾根直下より白鬚岳を望む

登山道から少し左へ入った小さな台地から、今度日東方向の展望が開け、白鬚岳や小白鬚の優美な山容と遠く霞む台高山系の山々が眺望できた。

11時20分尾根に渡る。ここは高度900m前後の台地。ここから勝負塚山の山頂までは高度差500mの尾根登りで、距離のわりには時間がかかった。尾根に沿った藓苔混じりの緩やかな勾配の踏み跡を出発して登ってゆく。左は岩壁や露岩を避け、右は深い自然林が、急傾斜で上多古川に落ち込んでいく。右の山肌には杉などの植林帯だ。やがて急坂となり、これを越すと一旦緩やかな踏み跡となり、前面に深い樹林におおわれた勝負塚山頂部の三角錐を見ながら気分よく前進する。右の背の低い若木の植林の向こうに、先程も見た大峰支線の上部分がカーブを描き、左はバナナなどの樹々を越し、上多古川の支谷や支流根が垣間見える。

再び急勾配となった尾根を進み跡を求めてぐんぐん登ると、尾根は次第に太くなりやがて樹林の中の勝負塚山東面山腹を登るようになる。途中大きな岩塊に出くわすが、ここは慌てずザレやすい岩壁に注意しながら石へ回り込み岩の上部に出る。ここから頂上へは左補花の流れる雑木林をテープを

下る。

二か所の展望所で再度大観を楽しむ。この時間に登山者に会わないというところは、今日この山に登ったのは私一人のようだ。平坦道に出て危険な岩場を下り、溪谷に着いて、熱いお茶とヨーカンで小休をとった。いつものように枝谷の清水をポリタンに満した。

15時過ぎ、上多古川道に出る。林道歩きの中で後ろを振り返ると、往路に見た感容とはまた異なった姿になった勝負塚山が、午後のお陽をいっぱい浴びて輝いていた。

15時40分、上多古川バス停に着き、54分発の杉の通行きの小型バスに乗る。白鬚岳東の山から木村を擁するヘリコプターが、しきりに空を舞っていた。

致ある山の中には、内容ある山でありながら近くにそれ以上に立派な山があるため、見劣りがして見損じられる不遇な山がある。勝負塚山もそんな山のひとつだと思っ。

不遇な山……それもまた良いではないか。いま、仮にこの山に「君は不遇な山だね。居場所がわるい」と聞いたら、「いいんです。本山の山好きが登ってくれば、私はそれで大満足」とでも返事がありそうな、勝負塚山であった。(平成6年4月16日歩く)

登山用品専門店  
ザックのことなら  
おまかせ下さい。  
**IMOCK**  
KOBE  
**神戸ザック**  
神戸市長田区大橋町9丁目3-1  
〒653 TEL (078) 521-5851  
FAX (078) 521-3528

▲コースタイム▼  
上多古川バス停(40分)伊保谷口合(30分)尾根への取り付き点(30分)尾根に乗る(1時間)勝負塚山(2時間30分)上多古川バス停

△地形図▼2方子千川河川  
昭文社「58・大峰山脈」(但し登山コースの破線なし)

ていた。

かなり下を流れる伊保谷を見下ろしながら、山肌を切って通された平坦道を爽に進む。小さな渓谷を渡り、水の溜る岩壁を横目に目を凝らして山道をゆく。途中で私のつけた鈴の音を聞き、大きな鹿が足早に谷を駆け降りていった。V字谷の向こう側の山は、所どころに岩の壁を付けて立ちはたかっている。仰ぎ見る空は真っ青だ。

10時40分折れた林業小屋のある尾根への取りつき点に着く。杉の木にテープが巻かれている。左へバック気味に急坂に取りつき、薄暗い樹林中の山道をジグザグに急登する。かなり高度を稼いだころ、一旦樹林が途切れ北側に展望が広がった。眼下に伊保谷を見下ろして、その向こう側には、1300m級の無名の大峰支線がうねるように続き、所どころに屏風状の岩壁のある巨大な山肌が急傾斜で谷に落ちている。そして中腹の露出した岩壁と岩壁の切れ目から細い滝が長々と垂下している。ワイドで迫力ある景観だ。ここは地形図を熟読するにも絶好の場所だ。15分間休憩した。

ここから再び樹林の山腹を杉の枯れ枝を踏みながらジグザグに急登する。そろそろ勝負塚山東尾根に登りつくと眺まれるころ、

山道から少し左へ入った小さな台地から、今度日東方向の展望が開け、白鬚岳や小白鬚の優美な山容と遠く霞む台高山系の山々が眺望できた。

11時20分尾根に渡る。ここは高度900m前後の台地。ここから勝負塚山の山頂までは高度差500mの尾根登りで、距離のわりには時間がかかった。尾根に沿った藓苔混じりの緩やかな勾配の踏み跡を出発して登ってゆく。左は岩壁や露岩を避け、右は深い自然林が、急傾斜で上多古川に落ち込んでいく。右の山肌には杉などの植林帯だ。やがて急坂となり、これを越すと一旦緩やかな踏み跡となり、前面に深い樹林におおわれた勝負塚山頂部の三角錐を見ながら気分よく前進する。右の背の低い若木の植林の向こうに、先程も見た大峰支線の上部分がカーブを描き、左はバナナなどの樹々を越し、上多古川の支谷や支流根が垣間見える。

再び急勾配となった尾根を進み跡を求めてぐんぐん登ると、尾根は次第に太くなりやがて樹林の中の勝負塚山東面山腹を登るようになる。途中大きな岩塊に出くわすが、ここは慌てずザレやすい岩壁に注意しながら石へ回り込み岩の上部に出る。ここから頂上へは左補花の流れる雑木林をテープを

頼りに踏み跡を求めて急登し、12時20分等三角点の埋まる勝負塚山に着いた。

幅が狭く東西に細長い滑らかな山頂で、人為的なものといえは三角点標と某山荘会の山名プレートくらいなものだった。

南側は足元に急な斜面が下り、山上が岳や岩が立ち上るに阿波尾根をかけたの緩坂と、矢張り竹藪や竹林帯など上多古川の支谷や支尾根などが眺められた。他方向は樹木が繁り、展望もなく電線、鋸で木を切り開きたい思いだった。

冷たい缶ビールを飲み、熱いみそ汁を作り食をとる。……うららかな春の日差し、谷からかすかに聞こえる飛瀑の音、そして適度な酔いと酒感……私はひとこま軽い順りに誘われた。

13時、山頂を後にする。下山前に山頂から西へ続く144.8mの尾根を少し探索したが、かなりブツブツに叩きされていた。登ってきた踏み跡とテープを確認し、忠実に下る。途中、巨岩に下るコースで踏み跡を見直し、けもの道らしい踏み跡に入ってしまった。気がついた時は50m程下っていた。元の場所まで登り返し、正しいルートを見つけて慎重に下った。巨岩を巻き足根筋に出て一息つき、往路の踏み跡を忠実に

## 尾張藩の御留山を歩く

# 道樹山から弥勒山へ

阪本 健治

尾張



道樹山の頂上付近

一段段高いところに慶応三年創建という玉野御留神社があった。ここまで登るとなだらかな定光寺の山が望まれる。

### 新緑が一番、ツツジの頃は見事

神社付近にはツツジが多く植えられているので開花の頃にはきれいだろう。お茶をわかして軽く朝食をとっていたら、「どこからおいでに?」、足音もなく気配も感じなかったで、突然の声にびびり仰天。玉野御留神社の神主さんだった。「このあたりは新緑が一番、ツツジの頃は見事です、遠いからちよくちよくは来られないでしょうが……」朝の散歩をしてこれからお

要所要所に道標があるので問題はない。

遊園地と展望台の分岐に出たので、展望台に行ってみる。ほんのわずかで展望台、駅の真上あたりで休憩舎と水道がある。樹木が茂り過ぎてあまり展望台の役目は果たせなくなっている。定光寺、山嵐山などは見えなかったが、このあたりの岩登り練習場となっているという岩場が見える。入り口付近で左に見え「たいしたことはないなァー」と思っていたが……、ここから見るとなかなかのものであった。

再び分岐まで戻って緩登して行くと、明るく開けた玉野園地、遊園地といっても隣に滑り台、ブランコ、鉄棒があるだけ、素朴なものである。休憩舎とトイレがあり、

### 「尾張の真田」

名古屋から発売の「京中央本線に乗り継いで定光寺駅に着く。ここは遊園地平野の東「尾張の真田」と呼ばれる特異な岩の多い玉野川沿いの景勝地である。近くには尾張藩の祖といわれる徳川幸西の廟所、臨濟宗妙心寺派の古刹・定光寺がある。

玉野川に架かる城館橋を左に見て清なりに進むと、東部自然歩道の歓迎アーチが現れる。線路のガードをくぐり抜け、沢沿いの樹林の道を緩登して行く。

このあたりはもう玉野東谷公園、道は一保になり自然歩道の道標がある。右に橋を渡って緩登すると、左の道も間もなく一掃になる。園地内の道が緩登に走っているが

勤めとか、「静かな山道ですから楽しんでみて下さい」と、同年配と見たのか親しみを込めたあいさつを残して園地を後にして行かれた。

明るい園地から再び樹林帯に入り、登ったり下ったりアップダウンが続く。ところどころにベンチがあるのは自然歩道の恩恵であるが、疲れて眠めはあまり良くない。ほとんどがマツなどの自然林だ。

平地の麓部を下る。樹木が現れ木橋を渡るとスギ、ヒノキの樹林帯に入り丁字路。「道樹山(3.5km) 1時間45分」の道標に従って左折すると、右の斜面には「キノ

コ山、無断入山禁止」といった板切れが目につくようになる。

そういえばこの付近、マツやアカマツが多く希少価値のマツタケの成育にはもってこいかも知れない。盗難防止の板切れはかえって逆効果では、と思うのは取り越し苦労だろうか。

### 神社と石仏の道樹山

送電線鉄塔の下を通る。巡視路なのか道幅が広くなり林道に出る。外之原峠、右は岐阜県多治見市飯訪町、左は愛知県春日井市外之原町である。鉄製の階段でツゲやマ



尾張藩の御留山、弥勒山は大谷山か

「尾張園地名文」によれば、道樹山、こ



弥勒山山頂の俯瞰図

れから登る弥勒山、大谷山を外之原山と  
 呼んでいたようで、尾張藩はこの外之原山  
 を上の御林、中の御林、下の御林に分けて  
 藩有林として管理していた、いわゆる御留  
 山であった。いまでもその名残からか愛知  
 県側は奥御林になっている。外之原村の項  
 には「東に國中第一の高山あり、大谷山と  
 呼て沖より船の目定にする山也」との記述  
 がある。この稜線の最高峰となっているの

は弥勒山だが、地図で見ると、やや低い  
 同じような標高の小さなピークが三つあり  
 (418.8mの標高の南)、その一つが大  
 谷山であろうか。また名古屋城の東門にあ  
 たる一とあるから、大谷山あたりに鬼門選  
 けの弥勒菩薩でも祭ったのかも知れないが、  
 弥勒山と同様『民衆地名考』にはそのよ  
 うな字句は見当たらない。  
 下に社務所らしい建物が見えるが、もち  
 ろん人の気配はない。左に急な道は細野町  
 からの参道で12月中旬に細野町の登山口に  
 ある秋葉神社で火渡りの神事がある。弥勒  
 山への縦走路は社務所の裏側を下を降り、  
 うに下り、尾根に乗ると、大世目神霊宗神  
 界大日如来という新興宗教だろうか、別な  
 社が現れる。このあたりからタカノツメ、  
 リョウブ、ネジキ、ソヨゴ、アセビなどと、  
 木の名前の表示板が目立つようになる。こ  
 こは愛知高原国立公園でもあり、道樹山定  
 光寺創立自然公園の一角でもある。

尾張三山など初めての眺望

山に入ってから大と散歩の人以外、まっ  
 たく人に会わない。私ひとり占めの山であ  
 る。425.5mの標高点、「愛知県一次基」  
 の石標の立つピークで、初めて北西の眺め

が開ける。白山、一等三角点の本宮山、尾  
 張三山、と尾張のような「尾張三山」と入  
 庫池が見えた。右の薄い踏み跡から空身の  
 人が登ってきた。下の三蔵寺団地の入で、  
 休日の朝はいつもこの道を登り、道樹山か  
 ら下っているという。身近に自然を満喫で  
 きるのはうらやましい。

一つほどピークを超えて急下降すると、  
 小規模ながら晴らしい峠にでる。左は春日  
 井市の少年自然の家、都市緑化植物園と朱  
 書された小さな道標があった。弥勒山の手  
 前の峠、地図に載っている点線の道である。  
 直進する尾根道は急な丸太の階段登高と  
 なる。ほんの標高差70mほどだが、きつい  
 登りを10分で本日の最高峰436・6mの  
 弥勒山頂上(春日井市の最高峰)に立つ。  
 頂上にはきょう出会ったはじめてのハイカー、  
 こちらと同じような中高年3人の先客が談  
 笑していた。

屋根付き展望台には俯瞰図があり、俯瞰  
 図と地図と実物を見ながら眺めを満喫する。  
 これまでのコースは樹林帯がほとんどだっ  
 たが、ここからは養老山地、伊吹山、近く  
 は尾張三山、左側には遠く伊勢湾、眼下に  
 高森山、サクラ並木で有名な高座山と、低  
 い山だが最高峰の展望台であった。

弥勒山からは再び樹林帯のコース。丸太  
 の階段などのアップダウン25分ほどで約1  
 300m高度を下げる。ベンチのある休憩ポ  
 イントを通るとわずかで、石仏のある峠  
 状の鞍部に下り立つ。鉄工所のような建物  
 があり、その建物の左側を自然歩道は道  
 について県道129号線に出る。ここには東  
 海自然歩道春日井コース自然起点の大きな  
 表示板があり、自然歩道は県道を左へ内津  
 峠に向かっている。

右には原集落へ下る。10分ほどで大龍禅  
 寺の山門前に平原上のバス停があった。だ  
 が運行表を見て愕然(ちよっとオーバー)か

な」とする。朝と晩の2本だけである。国  
 道19号線の内津峠まで出ればバスの運行本  
 数が多いという。内津峠まで戻るか、この  
 まま三の合川沿いに下るか息子の末、時間  
 もまだ早いことだしのんびり見知らぬ山村  
 を下るのもまた一興と、そこは一人旅の気  
 安さ、自分に言い聞かせて周囲の山々を見  
 ながら早春の道をJRの古虎駅に下った。

(平成6年8月27日歩く)

△コースタイム▽

JR定光寺駅(20分) 玉野園地(45分) 外  
 之原峠(20分) 380・6mのピーク(20

分) 槍峠(30分) 道樹山(10分) 425.5m

の標高点(30分) 弥勒山(1時間) 東海自

然歩道春日井コース自然起点(10分) 大龍

禅寺(1時間) JR古虎駅

△地形図▽2万5千1高森寺 20万1高森

コースはすべて樹林帯の中、フルシー

ズン楽しめるが、やはり新緑や紅葉期が最

高とおすすめ。

○定光寺周辺は自然休養林、こことドッ

キングさせれば、また別の楽しみになろう。

定光寺は無人駅、駅の周辺にはホテル千歳

楼があるほか、店など早朝だと皆無。玉野

園地を通ると水場は無いので注意。

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1 北アルプス峰       | 34 飯倉山       |
| 2 白馬岳          | 35 飯沼・出羽三山   |
| 3 御嶽・黒岳        | 36 奥山        |
| 4 駒ヶ岳          | 37 奥三山・妙高山   |
| 5 上高地・穂・穂高     | 38 奥駒・早池峰    |
| 6 奥秩父          | 39 八ヶ岳群峰・白根山 |
| 7 御嶽山          | 40 十和田湖・妙高山  |
| 8 中央・南アルプス     | 41 ニセコ・羊蹄山   |
| 9 木曽駒・空木岳      | 42 大雪山・十勝岳   |
| 10 甲斐駒・北岳      | 43 白山        |
| 11 碓氷・赤石・御岳    | 44 雲仙・伊吹・霧峰  |
| 12 妙高・戸隠       | 45 御在所・鎌ヶ岳   |
| 13 志賀高原・雄峠     | 46 土佐山系      |
| 14 野井沢・奥阿      | 47 京都北山1     |
| 15 西上村・妙高      | 48 京都北山2     |
| 16 美ヶ原・霧ヶ峰     | 49 京都西山      |
| 17 八ヶ岳・草科      | 50 北沢の山々     |
| 18 富士・富士五湖     | 51 六甲・翠野・有馬  |
| 19 箱根          | 52 高尾山系・二上山  |
| 20 伊豆          | 53 金剛山・岩手山   |
| 21 丹波          | 54 紀伊高原      |
| 22 高尾・箱根       | 55 阿高野       |
| 23 大菩薩連嶽       | 56 大峰山群      |
| 24 奥多摩         | 57 大台・奥大台・奥山 |
| 25 奥武蔵・秩父      | 58 赤目・奥多摩高原  |
| 26 奥秩父1(奥山・奥山) | 59 赤目山・奥多摩   |
| 27 奥秩父2(奥山・奥山) | 60 大山・群山高原   |
| 28 奥秩父3(奥山・奥山) | 61 四国山系      |
| 29 奥秩父4(奥山・奥山) | 62 石標山       |
| 30 尾瀬          | 63 福岡の山々     |
| 31 日光・奥日光      | 64 九郎・阿蘇     |
| 32 那須・奥那       | 65 祖谷・奥      |
| 33 磐梯・吾妻・奥日光   | 66 奥久慈       |

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102  
 支社 大阪府堺市西区中津6-11-23 電話06(3056)721(代) 〒532  
 営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川  
 名古屋・金沢・東京・広島・福岡

●昭文社の「山と高原地図」は社友として毎年春  
 頃発行されます。この年の標高はなるべく最新版  
 をご使用ください。お問い合わせは昭文社にお  
 かけください。昭文社の「山と高原地図」への  
 お問い合わせは、本社編集課「山と高原地図」担当  
 までお電話ください。また新情報等  
 お知らせいたします。



南アルプスを東側から眺める

# 富士見山

松田敏男

## 南アルプス

毎年、年末と3月の末頃に、まとまった日程を組んで雪山を歩くことを兼ねた山行を続けている。年末は厳しい寒さに加え、晴れる確率が低い。3月も末になると、晴間は多いが曇気な日差しに恵まれる日が多くなる。今回は南アルプスの伝付峠まで登って、天候の状態に合わせて荒ヶ岳方面へ、行ける所まで往復しようとして計画していた。主峰が西側にあるから、早朝、雪の連山の朝日を浴びる姿は、荘厳この上ない光景となるにちがいないと思いついてい

た。  
新幹線で静岡駅へ行き、身延線に連絡している急行に乗り換えた。富士山は五合目あたりより上は雲の中で、その灰色の雲の

状態から察すると、しばらく回復は見込めないように思われた。身延線を北上するに従い、富士山とは反対側の奥の方に雪の山が見え始めるが、曇天のもと、訝えない表情だ。もっと奥に南アルプスが横たわっているはずなのだが、暗い雲が垂れこめてくる。一人旅だから下界にいる時に、こういう出迎えをされるのは、なんとなく気が重いものだ。身延駅に降り立ってバスを待つ。身延山行きのバスに観光客がバラバラ乗り込んで、バス停は私ひとりとなった。雪が舞い始めた。富士川に右裾を落とす身延山が見えなくなっていく。  
そんな中、ここを起点とするバスが少し遅れ気味に到着した。私が乗り込むと、す



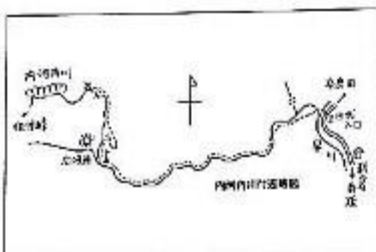
富士見山のブナ混交林

ぐに出発した。途中で地元の人たちが乗ってくるが、徐々に少なくなって、また私ひとりとなる。新倉の先の田代入り口に着いた。幸い雪はやんだ。  
寂寂とした早川を渡り、河川工事で荒れている林道を登り始めた。午後1時なのに、鉛色の雲が谷間を覆い、暗い。しかしそんな山の中にひとり吸い込まれていくように進み始めると、意外と心は落ち着いてくる

ものだ。もう進むしかないと思いつめながら、食事を増やす。次の朝も天気は良くなかった。しかしテントを撤収して出発する。このあたりに来るのは1978年の夏以来なのだ。確かその時は左の谷から下山したと思うが、まだ新しい標識は右の谷へとなっていた。それに従ったが林道は東の山腹へ進んで行くので、元の分岐まで引き返し、もう一度標識を確認する。方向に間違いはないと強信心を決めて、林道を登り直して進めば、左に標識があった。林道を見送り、左へ下っていく道をたどれば、谷筋になった。少し青

空が見え始め、先に希望が見え出した。しかし谷は急に狭まり流れの音が大きくなる。右に渡り、さらに狭くなった谷を進むと、顔の音は谷いっぱいに響き渡るようになり、流が現れた。地形図の内河内川の岩マークが百年に連なっている所だ。私の持っている昔の地形図には、発電所より左俣を登って尾根を乗っ越し、内河内川の上流に降り立つ小俣が記されていたのだが、そして以前はその道を歩いたように思うのに、なぜだろう。不安は谷の轟音と共に大きくなっていったが、進むより他はない。流の落ち口の上の鼻を巻いた所で、眼の前の岩壁に呼吸を止めてしまった。崖に取り付けられた横道が、大きな水瀑の中に消えてい

る。  
横道は厚い氷に覆われていて、つるつるだ。アイゼンをつけ、ピッケルを握る手に力が入る。横道には鉄の手すりがついているから、慎重に歩けば大丈夫だが、20kgの荷物を降らすことはできず、中腰で氷瀑の入り口の氷をピッケルで割る。氷柱が発達して氷瀑状になり、岩壁の数センチから谷底までの水の壁になっている。3はほどの間だけ、鉄の塊の屋根があるのだろう。水壁の中ほどの横道の部分だけ高さ1はほどの穴があいているという状態なのだ。入り口の太い氷柱を切り終えて、完全な水のト



内河内川の横道と水瀑のような大水柱

時間、徐々に明るさを増す。しかし谷は急に狭まり流れの音が大きくなる。右に渡り、さらに狭くなった谷を進むと、顔の音は谷いっぱいに響き渡るようになり、流が現れた。地形図の内河内川の岩マークが百年に連なっている所だ。私の持っている昔の地形図には、発電所より左俣を登って尾根を乗っ越し、内河内川の上流に降り立つ小俣が記されていたのだが、そして以前はその道を歩いたように思うのに、なぜだろう。不安は谷の轟音と共に大きくなっていったが、進むより他はない。流の落ち口の上の鼻を巻いた所で、眼の前の岩壁に呼吸を止めてしまった。崖に取り付けられた横道が、大きな水瀑の中に消えてい

ンネルの中を這って進む。入り口以上に穴を塞いでいる出口の水柱を中腹のまま刺して外に這い出た。まだ続く浅道を慎重に進んだが、その感度の板が落ちたによって落ちてきた。手すりだけに全体重を乗せて横歩きすれば行けるのだが、下は数尺の断崖でどす黒く水が渦巻いている。やめよう。はるばる来たけれど、よさそう。この上には雪の南アルプスが待っているけれど。

植雪につるつるの氷のトンネルを抜け、滝の上の鼻を登き、谷を渡る所に戻った。いつの間にか背窓が広がり、そこは暖かな日だまりだった。午後のバスまでには時間がいっぱいあき、乾いた大きな音の上にする。安堵感ばかりが心に広がり、南アルプスの懐にいろれしさを湧いてきた。コーヒードンをつくって静かに流れの音を聴く。冬枯れの木のこまやかな枝ぶりが鮮やかだ。引き返す道で何層も立ち止まり、冬の木々や向かいの谷筋の流などを写真に撮りながら、バス停に戻った。その道すがら、富士見山が近くにあることを思い出した。たしかガイドブックには簡単な里山的な感じで紹介されていたように思えたので、その登山口を思い出そうとした。何度も繰り返し見ているガイドブックだったので、切石

という地名を、ふっと思い出すことができ

た。切石へ行けばなんとかなる。バスの運転手に切石への行き方を聞くと、国道52号線に出合う所で乗り換えればいいことが分かり、時間待ちもなく乗り換えた。甲府行きバスの中で、今度はタクシイのことを聞き、切石のバス停より西へ15分程歩いた。こんな所に、と信じられないほどの田舎のはずれに、タクシイ乗り場があった。

そこから車道までタクシイに乗った。高原のなだらかな傾斜の中を登って、集落の一番上の家のはずれでタクシイを降りた。そこが富士見山の登山口で、下には甲府盆地がはるか遠くに見渡せ、その上には奥秩父の山並みがあった。右の神社の森の上に富士が頭をのぞかせている。のどかな景色だ。完全に青空だ。駐車場のような大きな広場の一角にテントを張る。富士川沿いの灯がちゅちゅと明るく光って、早春の夕陽に暖かな生活のぬくもりを感じた。

翌朝は快晴だった。テントはそのままで、薄明かりのまだ薄めやらぬ中、ランプをつけて登る。道標は完備されていて安心できる里山だ。雪が全くないのは少々もの足りな

いけれど、前日のあの寒さのあとだけに、至福感に浸って、ゆっくりと進む。

雑木林の中にブナの大き木が点在していて、そのひとつひとつの姿の美しさにしばしば見とれながら、きわめてゆっくりとしたペースを歩む。この小さな山を往復して、張ったままのテントに今日も泊まるのだから、文字通り身も心も痛い。見知らぬ山は天気は何よりだ。白くて太い幹を朝日が照らし、あたたかだ。一方、谷の源頭をまわり込む日陰の所は、冬の表情を残して、しんと静まり返っている。小さな山々谷の谷にはロープを張って渡るようにしてある。斜めの光を受け、雑木林の枝ぶりが朝日に輝かび上るさまは、蕭条としてたええようもなく美しい。休んでいるのか歩いていてのか分からないぐらゐの速さで、空の山のようなブナの混交林の中を登った。

雪が頬に残っている斜面を登りきると尾根に出た。尾根上はスパッツがいらぬ程度だが、雪がきっちり残っていた。北方は植林が続いているようで表情に乏しかったが、富士見山は南の方だ。いったん下って、同じぐらゐ登り返した所が、小さな洞のある展望台だった。私は地形図を持って来たかったので、三角点がないけれど、いや三

光の中に大きかった。

ラジオの音が聞こえ、ひとりが登ってきたが、私はそれまでに十分に満足していたので、静けさのなくなった頂をあとにした。展望台のゴブを降りれば、また足音だけの静寂が待っていた。来た道を戻るのだが、光線が上からになっていて、雑木林の表情は登りの時に見たのとは随分違っていた。全山あたたかかった。幸せだった。乾いた落ち葉の舞い上がりがあった。

(平成6年3月25日〜28日歩く)

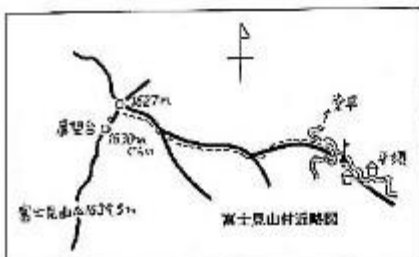
▲コースタイム▼

- 旧代入口(1時間30分) 広高原(1時間30分) 撤退地点(2時間30分) 旧代入口
- 平狭(3時間) 富士見山展望台(2時間) 平狭
- △地形図▽2万5千1新倉・切石



富士見山展望台より塩見岳・農鳥岳・間ノ岳方面を望む

角点がある山かどうかは算定なかったが、大きい富士見山の標柱を見て、頂上だと思っ



山頂より南へ30分程の所にこんもりとした同じ高さぐらゐの峰が続いていたが、それが富士見山の三角点であることは、地形図で分かる。たゞその時に短く、たゞとして、展望の無き、そう、二角点へ行った。だるうか。振り返れば、富士山が逆



## 野の花讃歌 (8)

市川 正次朗

### 近くの山を再発見



近くの山も捨てたものではな  
り、いやそれ以  
上に素晴らしい  
山があるのだと  
再発見。

西山の「阿ヶ山」にカタクリの群落があるらしい、との情報をもとにメンバーの一人が仕入れてきた。「まさか、そんな近いところだ」と半信半疑。とにかく下見をと、友人を誘って出かけました。私の住まいから車で40・50分の山間の小さな村落へ。うっかりすると見過ごしてしまいうえ、かまぼこ板ほどの小さな標識をたよりに山道に分け入りました。

高麗が増すほどに、春霞のようなヤマザクラ、真っ白なタムシバ、鈴なりのキブシなどが、まだ新緑まばらな山の斜面から私

たちを迎えてくれます。足元にはスミレが満開。

頂上まで登ったのですが、めざすカタクリには出会えず。「たしかにこの山だと聞いたんだけど」とか言いながら歩いていた時、山道から腹へわずかな痛みを見つけ、何気なく分け入ると、ありました。まばらな雑木の斜面にまごうことなきカタクリの大群落。あの独特の紫色の花弁をそっくり返し、春のおだやかな大決裂陽の中で揺れていました。

実はこの山域、数年前にゴルフ場にする計画が持ち上がったのですが、地元をはじめ自然が大好きな人たちの懸命な反対運動で中止になったところです。身近かな自然を守っていたら、あがりようございました。

### 若い登山者にエール



近年、山に登る若者がめっきり減っているといえます。高校や大学の山岳部は部員不足で休部、廃部のところも多いとか。きつい、きびしい、きたない、3Kの見学みたいな山岳部など、きょう日の若い

人達に好かれるはずがないのです。時代は変わったのです。

最近、なぜか思い出すのです。私が夜間高校生の頃、たまにもらった休日最大限にいかまうと、ワンゲル仲間を誘って前後から重いテントをかっついて六甲や比良へ。今と違って装備などまったくなくて、骨太のセーターやオーバーで山に登り、ここ栄光。本望心のを平士の喜びとしていた時のことなどを。

北ア・雲の平から奥郡五郎岳へ登った時のことです。その道中、聞こえてくる「エイ・ホー、エイ・ホー」のかけ声、けさ「雲」のテンバから私たちがよりひと足早く出発した奥郡山岳部らしい10数人のグループ。ぐんと降りた奥郡源流から三俣連華岳への登りの時も、奥郡五郎へのあえぎあえぎの時も、先を行く元気なかけ声が絶え間なく聞こえていました。

「エイ・ホー、エイ・ホー」。昔なつかしいキスリング型のリュックをばんばんにふくらませ、その上に食糧入りのダンボールやテントを乗せてアルバイトする若者達に心からの声援を送りながら、私も同じように、「エイ・ホー、エイ・ホー」とかけ声をかけながら、双六へと歩きました。

### 京都北山

### やぶ漕ぎ痛快山行記 (19)

### 新芽萌ゆる快適縦走路を歩く

はっちょうだい

### 八丁平・オグロ坂峠から鎌倉山

かまくらやま

### 京都北山グループ

今日の例会は前夜から雨、朝方になっても霽雨は上がりず天気が心配だ。ともかく出町観望の集合バス停にでる。

梅ノ木行きのリバはこんな天候でも山好きの仲間がいっぱい。Tさんが先頭に並び、その後には大勢のKKG仲間の顔が並び、なんと8人の参加者。天候判断には自信があり、決断して来られた方々だ。臨時バスも出て、今度着席で葛川中村学校前で下車する。

霧雨も上がり、奥比良の山々の山頂付近はガスの中だが、水蒸気は上昇中で天候の回復を早めているようだ。道はまだ濡れ、露も結構あることだろう。スパッツを着装

して足元完全装備で江原谷林道(伊賀谷とも)を右俣取合へと進む。今日も女性の方が多く、鳥の声にも負けない笑顔が谷の水音に混和するかのよう。歩行も快適で予定タイム通り右俣への標を渡る。ここで小休止、リーダーより冷果オレンジをいただく。冷たいものの美味しい誘惑、またピタミンCのパワーが気分を高めてくれる。

右俣の水量は雨の後にもかかわらず余り増えている。山の緑が吸収し、ダム役目を果たしている。水質検査森林が、いかに大切かが分かる。右俣沼に丸木橋渡渉の繰り返しで急登道と展望台道の分岐にでる。右の展望台直道をとり谷をつめて、左

オグロ坂峠



の樹林のジグザグの勾配のきつい登りに取りつく。

本来ならば右俣谷を直頭までつめて、オグロ坂峠と鎌倉山の被線に天棚を追求・ヤブとの密着を社動していたが、雨水含みのヤブ漕ぎはスズ濡れでジメと中村乗り感しコースに変更した。

このジグザグの展望距離へのコース、足元にはイワウチワが群生し、今が満開で可



## 近江側から登る鈴鹿の山々

——鈴鹿の思い出・おもしろ話——(1)

### 岩野 明

#### 鈴鹿で出会った動物達

遊覧船側から登るルートは、ほとんど人が通らないため動物の生息密度が濃く、いろいろな動物達に出会うことができる。それを楽しみに毎年40回近く登っている。近年獲物が減り、動物達もかなり増えているようだ。平成3年から3年間に会った動物達は、罌、猪、カモシカ、猪、山鳥、リス、狐、狸、兎、キジ、イヌワシなどである。

この中でカモシカの数はあまり変わらないうえだ。鹿は4〜5年前までは余り見かけなかったが、近年至る所で見られるようになった。特に雨乞岳山城にはかなり生息しているようだ。

平成4年10月、イブネ山城を歩いたが、

この時オス鹿2頭が甘い声で鳴きながらメスを追い回しているのを見た。清水ノ頭、田村谷源流、菅尾谷林道の南斜面、その他遊覧船側の山々にもかなり生息している。

#### ① 狸

近年、狸が増え山麓の集落を荒らし回っている。蒼矢、黒流の手前のシラギが一面に咲いた田圃に、約70匹がシラギの花を食べていた。その時、若いオス鹿が道路脇の大きな杉の木に寄り、木を揺すりながら大声で群れを威嚇していた。鹿野や西明寺周辺にもかなりいる。大きな殺費いオスのほぐれ狸がいて、作物を荒らし回るので手におえないと聞いた。田中郡では道路脇の畑から、ユズギを引き抜いて逃げて行くのを

見た。話によると田圃の上から様子伺っているようだ。多賀町の汗川沿いの集落では、うっかり罌を閉けて留守にすると、家の口に罌が入り、罌の蓋を開けて飯を食べてしまうと聞いた。

平成5年の秋には御池新開地や、真ノ谷を何回も歩いたが、行く度に真ノ谷周辺でボヌの聲をめぐって争っているのか、狸の争う声も何回も聞いた。ある時、いつものように真ノ谷を下って土倉谷出合いを過ぎたあたりで樹林の中で、狸が大騒ぎをしているのが下からちらちらと見えた。切り立った崖の下で清水に、ひさびさが群生していたので構っている。真上で声がしたから思うとすぐ、小石がばらばらと落ちてきた。見上げると茶太の石と一階に及ぶ40坪くらいの古い丸太が、落ちてくる。慌てて逃げた。しかしびびりすぎた。その後遊覧船キヤックと嬉しながら、御池岳の南斜面に移動していった。

#### ② イヌワシ

平成5年秋、藤原岳の天狗岩で休んでいる。右下の切り立った崖のあたりで、鋭い鳴き声が何回もした。狸や鹿の声とは全然違つた。何だぞうと思っていると、2羽の

リトリリーは20〜40ヤと聞いている。

現在、全体的に開発が進み、イヌワシのテリトリーも年毎に狭められている。鈴鹿山系だけでも本当の自然を残し、動物達が増えイヌワシなどが生息できる環境であってほしいと願っている。

#### ③ 鷹と行兎

永源寺橋の遊後谷林道をバイクで走っていると、行兎が飛び出した。後をついて行くのと左の溝に入った。バイクを停めて見ていると、溝を下り草むらに頭を突っ込んで入った。頭隠して尻隠さずとはこの事かと思つて見ていると、林道を下りだした。その時上空から鷹が急降下して行兎を襲った。鷹は兎を回り回ったが右に左にかかわり向きを変え、林道を登った。鷹は上空を旋回しながらなおも狙っている。私は行兎の後をついて一緒に登って行った。約10分の切り立った崖で、石を落とすしながら一気に中腹まで登り、向きを変えたところで小石と一緒にするする落ちてくる。はらはらしながら見ていると行兎はやっと中腹で止まった。この時獲われたら大変だと上空を見た。鷹はいない。行兎はほつみを付けて右斜面の上に、小石をいっばい落としながら一気に

登って樹林の中に消えた。ここは切り開かれたばかりの険しい崖である。動物達にとってはこんな賑々しい何でもない事のようにだ。

#### ④ カモシカ

御見峠の北に御見山(918m)がある。この山に登り稜線を線山に向かって進む。次のピークを登りつめると南側が急に開け、偵察して杉を植林したばかりの尾根に出た。回りにはネットが張つてある。中に入ると尾根が一気に開け、眼下に藤野の集落、そして八日市方面に広がる海軍野の眺望を楽しむことができた。

下り始めた時異様な物が目についた。何だろかと近づくと、干潮びて皮と骨だけに変わったカモシカの死体だ。網に頭を突っ込み抜けられなくなり、もがき苦しんだ末に死んだらしい。両辺を折ほどの山肌は深く削り取られている。無様な姿だ。間近にカモシカの死体を見て、やりきれない気持ちになった。網を切り頭部を放いて北の谷のけもの道に置いて、手を合わせた。

野洲川流域の山に登る際は日野町から鹿見峠を越えて入っている。峠越えの道を通る度にこのことが思い出され、忘れられない山になった。



鹿の角を発見

大きな角がゆっくり眼下に現れた。イヌワシだ。鹿の先端の羽が指を開いたようになっている。「羽は黒い鹿の一部に白いところが残る若鹿だ。付かず離れずの状態であつくり回りして下階と上層を繰り返しながら藤原岳の西斜面を飛行し、天狗岩の南斜面を上下に飛び回っていたが、そのうち稜線を越えて東に飛んで行った。

5〜6年前、鎌子ヶ口山系の水戸ノ池で、佐日小谷頭部を飛んでいるイヌワシ1羽を撮影したことがある。鈴鹿山系にもイヌワシが居るのか、それとも湖北か奥美濃から飛来したのかわからない。イヌワシのテ

# 残雪の靈仙山西南尾根

鈴鹿、靈仙山の登山コースで、今細から  
近江側、近江屋敷台と登り、西南尾根を最高  
峰・靈仙山と通るコースがあるが、以前は  
歩く人も少なく特に夏草が繁る時期は敷に  
覆われて道が消えていたが、近年になって  
通る人も増え道もしつかりしてきた。私の  
好きなルートの一つで毎年残雪の時期にこ  
のルートを下ることにしている。被験は足  
伏がほとんどなく、3500度の風壁を凌し  
みながら登る朝に向かっているコースはこ  
つまでも心に残る。

車で多紀町から丹波川沿いの道に入る。谷  
沿いの道には除雪された雪がまだかなり残っ  
ていた。西南尾根の登山口の下に広場があ  
り駐車できた。8時50分出発、今日は天気  
も良く昨夜の雨が山では雪になっていた  
ようだ。最高峰の一日になりそうだ。落合の  
集落には人の気配が全然ない。どの家も扉

根の雪が風に落ちて堆く積もっている。物  
音一つしない集落には不気味な雰囲気が漂っ  
ていた。

谷沿いの林道にはまだ残雪がかなりあっ  
たが、冷え込んでいたので滑ることはない。  
大瀬谷は前日の雨と雪解けで増水し、沢水  
を上げながらゴウゴウと流れている。谷の  
斜面の雪は消えているが、右斜面にはまだ  
かなり残っている。樹々の根元の回りはス  
パッと切りとったように雪が消えている。  
深い谷にもすぐそこまで春が来ているよう  
だ。うっそうと繁る杉木立の中を進み、林  
道終点から山道に入ると雪が消えていた。  
左斜面の道は最近植を打ち込み丸太を渡し  
て登りやすくしてあった。驟然に白い飛沫  
を上げて洗われる谷を右に見ながら登ると、  
道標があった。すぐ先が最後の水場だ。左  
に折れ雑木の中の急勾配を登ると汗ふき特

残雪の靈仙山西南尾根



に登っているようだ。  
雪はほとんど消えて雪解けの道はぬかる  
んでいた。見晴らし台のあたりから残雪が  
現れたが、昨夜の雪が汚れた残雪の上に積  
もりまるで新雪のように思われた。次第に  
展望も開けてくる。山の樹々には雪が付き、  
山全体が朝日を受けて白く輝いている。  
急坂の石壁を登り崖線に出ると一気に展

望が開けた。左は湖東平野から琵琶湖、そ  
の先は養蚕の上比良山が白く輝いてい  
る。そして湖北の山々、特に金栗岳と伊吹  
山の雪の頂が一際高く眺められた。正面  
は霊仙山から靈仙山へと続く緩やかな雪の  
スロープ、手前の雪原は一面の銀世界だ。  
その中に踏み跡が延びている。灌木には極  
氷が付き、ガラス細工の花のように輝いて  
いる。眺望を楽しみながらゆっくり踏み跡  
を通る。お虎方池の古い木の鳥居は片側に  
いっぱい雪を付けて立っていた。

霊仙山の斜面を二人登って行くのが見え  
る。その踏み跡を辿っていくと、登るにつ  
れ雪が風に飛ばされて少なくなっている。



岩が現れる。経塚山の山頂に着いた。11  
時40分、山頂はいつものように寒風が吹い  
ていた。風下の岩場で二人が食事した。私  
も少し下の岩場の日だまりに腰をおろす。  
霊仙山にも4〜5名登っているが見える。  
湖北の山々から伊吹山・養志山脈、そして  
右に続く霊仙山の樹木の山肌を眺めながら  
ゆっくりと登り始めた。

食後カンジキをつけて霊仙山に向かう。  
鞍部からは誰も通っていない左側に張り出  
した雪原を登る。サラサラの粉雪、パチパ  
チに凍結した雪面、崖水をいっぱい付けた  
灌木が右側に続く。崖線だ。しかし太陽が  
雪原に反射してまぶしく、目が痛い。

鞍部に着くと展望が開けた。正面に西南  
尾根が雪をいっぱいさせて延びている。誰  
も通っていないようだ。山頂の手前で火を  
塗れた椅子がソリで遊んでいる。この時期  
にとびつくりした。霊仙山山頂にも3名の  
登山者が休憩中だった。最高峰1088mの  
の雪原はかなり雪が出ていた。今回はここ  
からストレートに下って西南尾根に取りこ  
くことにする。これから近江屋敷台までが  
このコースのハイライトだ。心がやけに堅  
く。雪がしつかり残っている左端を一気に  
下って、浅い谷から左斜めに登り、隠板の

鞍部に着いた。  
振り返ると白い雪原に私のつけた足跡が  
霊仙山から続いている。何とも言えない爽  
快感だ。山頂の全員が見えている。展望の的  
になっているようだ。手を振って呼べる。  
尾根には最近残雪があり雪原も所々に  
張り出していた。緩い登り下りの先に雨雲  
岳。その先のコブが近江屋敷台だ。右斜面  
は樹木がどこまでも続き、左は緩やかな斜  
面から急角度に落ち込んでいる。3500度  
ささるものは何もない。去年の2月の遭  
難時の際、白力下山した台谷林道が左後  
方山下に昇った。南は霊仙山と西宮、その  
奥に鈴ヶ岳、北に肩を落とした被験は茶臼  
の雪原へと続いている。そして主峰御池田・  
藤原岳・国見岳へと続く霊仙山尾根も雪をい  
っぱいさせている。誰も通っていない被験に  
トレースを残しながら晴れ晴れとした気分  
でゆっくり下る。南宮から振り返ると私  
のつけた足跡が彼方まで続いている。  
近江屋敷台には雪はなかった。岩に腰かけ  
て落合の集落を見下ろしながらカンジキを  
外し一服。湖東平野と琵琶湖は雪原の中だ  
が、近江屋敷台だけははっきりと見えた。コー  
ヒーを飲んでみると、右下の雪原に鹿が一  
頭登山道を登ってくる。途中で見えなくな

たので展望台から覗くと、鹿は真っ白いお尻を見せて、あっという間に大岩谷の方に消えた。

笹原が夏下に見える、ここからの下りは凄いい。ダイレクトに約300段、古峠の滑りやすい道を笹や灌木を掴んで下ったが、やはり滑るので途中で道を諦め笹原を道に沿ってストリートに下った。下った所の道ははまりしない。雪のない地肌を運びながら下ると鞍部の頂峰に着いた。尾根の右斜面に道は延びている。くされ雪を約20分ラッパルしながら下って左に回り込む。雪は吹き溜まりで深い所もあるが、だんだんに少なくなった。杉の林を出ると急に明るくなり、荒れた草地に出た。すぐ下が鹿村となつた今期の集落だ。倒壊寸前の家が日立つが時々揺られて来るらしく、どの家も屋根がビニールシートで覆ってある。急斜面の畑には梅が咲き誇っていた。

集落の中程、道の横にしっかりと小皿がある。小屋の中はセメントの四角い油があり、奥にはこんこんと清水が湧き出している。柄杓があつたので、喉を潤すと美味い。2杯一気に飲んだ。谷沿いとは違うこのような中腹の急斜面に人が住みついたので、集落の中心に廻れることなく年中こんな

こんと湧き出る水があつたからで、この山村の人の心のより所だったのでと想像している。今にも誰かが水を汲みに来そうな気がしてきた。水筒に水を汲んで下る。

すぐ下の道路に出ると、日だまりの斜面に稲藁草と部分草が何層もかたまりになつて、可憐な花を咲かせていた。今回は今までにない素晴らしい一日を過ごさせてもらった上に、最後にめでたい早春の花が待っていてくれた。

尚、残雪期に落台から登る場合は、落台まで除雪はしてあるが駐車できる広場が限られている。又冷え込んだ朝は入谷から先の路面が凍結することがある。道路の状況が悪い場合は入谷の手前の広場か又は河内の駐車場に駐める方が安全である。

5月の連休には、笹原に登る道筋に珍しいトキワイカリソウの白い花がかなり咲いていた。そして西面尾根にはイチリンソウ・ニンリンソウの白、クサボケの赤、タンポポとヤマブキノソウの黄色、スミレの紫と色とりどりの花が咲いていた。春の草花と新緑をしてもっとこの風景をゆっくり楽しめ、霧仙山で昼食、下りは正面南面尾根に直接下ることにして、草履を斜めに下ると右側が笹の深い谷に変わった。谷の西斜面は灌木

の岩壁が続いていて下れそうだった。谷の上部の笹の切れ目を横切って岩場を下ることにして、灌木の中を進むとけもの道が続いていた。すると谷の上部のくぼ地の山に出た。このくぼ地が池になつている。新発見だ。お虎ヶ池よりは小さいが、それにしても山頂から300段も離れていない所に池がありまだ誰も知らないとは驚きた。池の上辺を歩き、岩場を下って広い谷から南面尾根の北原尾根を登り、左に回り込んで鞍部の登山道に出た。今回の新ルートは草原と灌木が主で藪はあまりない。ルートは赤い紐で印をした。今後は最短ルートとして大いに利用できるだろう。

(平成8年4月13日・5月8日歩く)

- ▲登りタイム▼
- 西南尾根登山口(10分) 落合(1時間) 汗ふき峠(30分) 見晴らし台(1時間20分)
- 経塚山(25分) 霧仙山(10分) 西南尾根(30分) 南面尾根(10分) 近江展望台(25分) 笹原(50分) 西南尾根登山口
- ▲地形図▼明文社「44霧仙・伊吹・藤原」
- 2万5千円霧仙山・彦根東部
- ▲交通▼マイカー利用
- (宮野明)

エリア別 徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑥

たにや

谷山から鹿あそび・ソノド

霧仙山の東に登る谷山(992.8m)は、霧仙山で登る人もなく忘れられている。しかしこの山の西の肩に素晴らしい展望台があり、この山を基点に長大な尾根がふたつ延びている。ひとつは杉や檜の森林に覆われてしまった傾斜の長尾尾根で鈴鹿の主稜線となつて南に続く。もうひとつは東に向かい鹿あそびで南に向きを変え、△ソノド(928.8m)からゆっくりと高度を下げて時止の地帯帯まで続いている。周辺の山は森林がかなり進んでいるが、このソノドへの路線には森林がほとんど残っている。多賀町から片川沿いの河内郷を進み、河内の屈折を過ぎると道が分かれた。左折して谷間の集落を過ぎ、谷沿いの道を進むと次第に谷は狭くなり植民谷の溪谷に入った。この谷は路線では一番すごい深谷で、両岸は崖面に切り立った杉林が続き、水の濁れ

た白い石灰岩の崖に道が続いている。谷の底から見上げる景観も見事だ。尚、この谷は左石の守庫でテレビで放映されたこともある。鞍部谷を渡ると谷は次第に開けてくる。二本の大杉を右に見てさらに進む。白谷を渡ると道が分かれた。直進すると五樽・保月方面に向かうが、左折して白谷林道を進む。谷沿いに延々と続く林道を約4km、奥に進むと左に崖が、橋を渡って谷から離れ西南尾根へと続くが、この橋の手前に車を駐める。

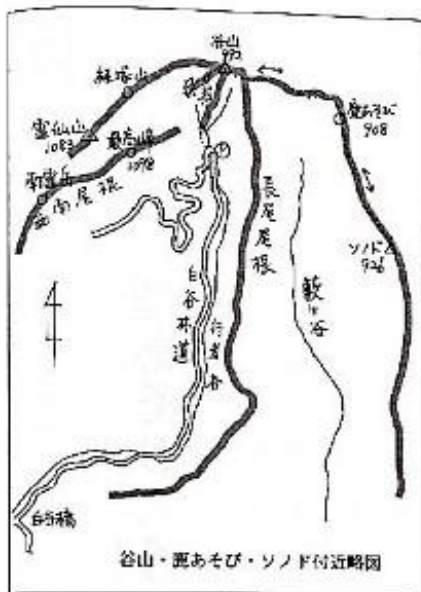
展望台から霧仙山方面を望む



折り返しの道道が続き道が分かれた。左にとると今を(宮野)しながら縦い登りが続き、谷に下ると左下に道が続いていた。今がて道が消えるが、そのまま谷を進むと谷が分かれた。左は霧仙山に突き上げている。水を確保して右の谷の右斜面を谷山に向かう。藪のない森林の中の急斜面を辿ると、右の支尾根に笹が現れ、灌木に覆われた展望台があった。右に登って見ると展望が開けた。目の

前に巨大な雲仙山が見えた。谷山へと続く支尾根は世に覆われている。右斜面は杉の植林だ。左斜面の森林の中を登りつめると岩と灌木帯に変わり、右に展望が開けた。右の支尾根に出ると草原の素晴らしい台地が広がっていた。リュウノウキが白い可憐な花をいっぱい咲かせている。その回りをススキがとり囲んでいた。腰を下ろしゆっくり眺望を楽しむ。

左は藤原岳から御池岳、正由には明るくゆったりと傾に広がる巨大な雲仙山を望む。柏原からの登山道が斜面を登っている。



谷山・雲あそび・ソノド付近略図

その無類の頂きにお伽敷に出てくる家のような遊樂小屋がちょこっと建っている。

谷山へと続く支尾根上は笹藪が続いていて通行は無難なようだが、一服して左斜面の樹林の中を左に回り込みながら山頂に向かう。木に赤いテープが付いていた。印を辿ると笹の藪に変わったが笹の中に切り開きがあった。かき分けて進むと谷山に着いた。狭い広場の隅に三角点があった。辺りは背丈を越す笹に覆われ、展望はない。南斜面は杉の植林で間伐と伐打ちが終わったばかりでかなり伐り倒されている。雨に辿ると間伐が終わった樹の枝葉が出た。奥の尾根上は右に左に伐り倒された樹が横たわっている。その中を通ると緩い下りからややがて登りに変わり、笹と灌木のビークに替わった。

このビークがふたつの尾根の分岐だ。直進すると御池岳、左折するとソノドへと続く尾根。ビーク

の笹原の左斜面を少し進むと、これから辿る雲あそびからソノドへと続く峻険が眺望できた。その先に三箇岳・鳥帽子岳が続いている。樹林の中の緩い下りが続きテープの印も続いていた。後継にはイワカガミの群生があった。

藪谷峠に着くと左斜面から古い道が現れ、尾根上に続いていた。深く積もった落ち葉を踏みしめながら進むと、コブをいっぱい付けたブナの木が現れた。雲あそびの登りになると道がはっきりしなくなったが、テープの印が続き、右に回り込み雲あそびの広い台地に着いた。樹木に覆われ展望はない。冬にはかなり積雪があるようだが、樹木はほとんど傾きながら上に伸びている。「雲里山」の表示板が木に取り付けてあった。

一服して、出発する。広い樹林の中で印がなく、探しながら進むと、下りになった所でテープの印が現れた。細尾根に着いた。左右に展望が開け、コブをふたつ越えると、ソノドへ深く掘り込まれた古い道が登っていた。道は人が全然通らないため枯れ枝や落ち葉が深々と積もっている。登りつめると平坦な道でやがてソノドに着いた。三角点は灌木の中であり、東のススキの草



谷山から雲あそび・ソノドを望む

原に出ると展望が開けた。東に伊吹山から養老山脈、鳥帽子岳、藤原岳、御池岳と続いている。展望を楽しむながらゆっくりと食をとった。

引き返す途中、左手の樹林の間から雲仙山が見え隠れしている。気になるので登れそうなる木を探し、カメラを持ってその木に登った。濃い緑の長尾根の上には雄大な雲仙山、長々と延びる西国屋根は吃いた草原の色と色づきはじめた灌木、その中に白い石灰岩が見える。右には最高峰、経塚山が續いていた。私だけの豪華な眺めをゆっくり楽しめ、写真を撮って木から降りた。

車で帰る途中、藪谷谷に入る手前でV字に切れ込んだ深い谷の上に、西日をいっぱい受けた西国屋根の南端が忽然と現れた。車を停めてコーヒーを飲みながら、西国屋

根の景観をゆっくりと楽しんだ。

(平成6年10月15日歩く)

△コースタイム▽

白谷林道(40分) 源流一帯(15分) 展望台(15分) 谷山(5分) 尾根分岐(40分) 雲あそび(1時間) ソノド(2時間40分) 白谷林道

△地形図▽昭文社「44雲仙・伊吹・藤原」2万5千1雲仙山 (岩野 明)

関西 山越の古道(上)

中庄谷 直著 四六判・二〇〇〇円  
 一生駒越・葛城二八越・六甲・丹生越  
 忘れ去られようとしている山越の古道を、石仏や道標や丁石をたどり、石畳を踏みしめる静かな山旅全30コース

京都丹波の山(上)

内田 嘉弘著 四六判・二〇〇〇円  
 山陰道に沿って 国道8号線に沿って、山城、丹波境の大枝山から丹波、丹波境の大江山まで約70山初の方ガイド。下巻「丹波高原」来秋。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2  
 電話 075-751-1211 千606



# 残雪の鞍掛尾根から御池岳

早春の鈴鹿では、やはり残雪の御池岳が一番だ。しかし近江側から登る人は少ない。私が毎年登る鞍掛尾根ルートは展望も良く、意外に登ることが出来る。鞍掛尾根を履き尽くすだけのスロープは広大な残雪の原に一変する。登りきった鈴北岳から南へ約3km、緩やかな起伏が広がる雄大な高原状の台地は、神秘的な雪の世界に変わり、どこでも自由に歩くことができる。雪と戯れながらのんびりと通るルートは、いつまでも忘れることのできない強烈な思い出を残してくれる。

多賀町から車で鞍掛峠に向かう306号線を進むと、回りの山々にはまだかなりの残雪がある。最奥の大君ヶ畑を過ぎると雪が深くなったが、道路はきれいに除雪されている。道路の状況も「や」と終わり今年には鞍掛峠まで車に到着できた。

道路脇に駐車して10時前に出発、御池谷に向かう。林道にはまだかなりの残雪があり、吹きだまりは10cm以上積もっている。左に谷川の音を聞きながら登ると間もなく道は二分する。右進すると御池谷の登山道に向かうが、左に折れ橋を渡って回り込むとすぐ、右上の送電線鉄塔に登る巡視路があり、入り口に「火の用心」の看板が立っている。この道を登って尾根にのると雪は消えた。送電線鉄塔をストリートに登っている。進ると左斜面の雪は深くなるが、右斜面は消えている。雄木の尾根に出ると残雪の道に変わり、多少もぐもぐする所もある。次の急な登りにかかる道は膝までもぐもぐ雪の中に完全に消えた。右斜面の雪のない雄木の中をかき分けながら登り鉄塔を過ぎると杉の植林に変わった。巡視路は左斜面の雪を登って鞍掛尾根へと続くが雪が深く

が続く。登るに従い後方の展望も開けてくる。左に思い山深い雲仙山西南尾根、三國峠、鳥羽峠をして養老山脈から名古屋方面までの展望が得られた。雪はすっかり溶まっていて最高だ。眺望を楽しみながら1056坪のピークに着くと、正面に鈴北岳へ続く鞍掛が望めた。

今ははびさしぶりの大雪だ。鞍掛の左側に雪が張り出している所もある。しかし晴天が続く、樹氷がないのが残念だ。鞍掛を挟んで左右に支尾根の樹林が並ぶ道となつて遠くにも分かれて延びている。振り返ると雪原の中に私のトレースがどこまでも続

いていた。一旦下ってから登りにかかる鞍掛の雄木が雪の頂みでかなり折れている。やはりすこい雪の嵐だ。急傾斜の登りになって滑りやすいので斜めに折り返しながら進む。タテ谷の道標を過ぎると鈴北岳はもう目の前だ。前後左右の景色を楽しみながら鈴北岳に着いた。誰もいない。

展望が一気に開け、左には養老岳へと続く奥の尾根、そして足元から緩やかに下った日本庭園から真ノ谷へと続く広大な雪原の向こうに、モコモコと重なり合っている。雪原のような樹林の鞍掛が丸山へと続いていく。ゆっくり鞍掛を楽しんだ後、左に回り込んでドリーネを見て



鞍掛尾根から御池岳付近地図

り込んでドリーネを見て日本庭園から左に折れ、浅い鞍掛を丸山へと向かう。このルートも近年通る人がいるようで古い踏み跡が続いている。ドリーネの道を過ぎて広い谷の緩い登りをするとすぐ上が丸山だ。苦むした鈴鹿独特の樹林、オオイタヤマイゲツの中を登ると丸山に着いた。

山頂は人でいっぱい、テントも張ってあり休憩場所もない。奥の平に向かって歩きたすと前方にカメラだけを持った舞妓の若者が歩いている。靴はかなり濡れ、膝の破れたジーパンはいかにも寒そうだ。福寿草の写真を撮りに大阪から来て、ヨグルミ谷に着いたと、替んな登って行くのでついでと買ったことだが、しかし元気だ。寒い冷たいと言いつつも、蒸騰らしい景観に顔を紅潮させ写真を撮っていた。早々に下山するよう注意した。

奥の平は雪が出ていたが北東に張り出した尾根にはかなり雪が積もっている。先婚まで行くと眼下にV字に落ち込んだ真ノ谷、そして白刺峠から続く雲の麓岳の全貌は圧倒的な迫力で展開していた。その先には名古屋方面が養老の中ばんやりと広がっている。引き返して左斜面の雪原を少し下り、右に回り込むと樹林に着いた。山頂の蒼むした岩と湧水は深い雪に覆われ、その中にマユミの木が三本風を受けて立っていた。南に展望が開け、御池岳南部の広大な雪原と黒に近い樹林の帯、その先には南鈴鹿の山並みが続いている。腰を下ろして目の前に展開する大パノラマを楽しみながら昼食をとった。下の雪原から声が聞こえてくる。今まではほとんどの人がホタンブチ池で引

鞍掛尾根から鈴北岳を望む





鈴北岳から見た丸山

き返していたが、今年は南の山城にもかなりの人達が入っているようだ。

最後、ポタン岩に下ると西に展望が開けた。富士山のような形をした天狗堂は雪をいっぱい付けて優美な山容を見せている。右に延びる雪の稜線はサンヤリ(仏俣さん山)・流谷山・ミノガ峠と続いている。その先は積雪の中だ。展望を楽しんでいると、東の谷を5〜6名が一列になって南に向かっ

ている。その後について南に向かう。巨大なドリーネの橋を渡るとさらに大きなドリーネが現れ雪原に着いた。雪原のあちこちにグルーブが固まりになって見えている。見ていると何か雪の湖上でワカサギでも釣っているような騒ぎだ。昼から天気が変わりだし、ガスが出てきたため、南峰からの展望は望めなかった。

反照は無用、引き返していると西の谷からガスが吹き上がり見えている間に山全体を覆いだした。天と地が一体となって茫然たる白の世界に変わってゆく。濃液の橋を踏みガスの次々と東に流れ、今まで見えていた樹林がガスの中に消えてゆく。雲気が漂う静寂の中、幻想的な風景に見とれていると、後方で音がした。ガスの中から人が急いでくる。待っていると、「ガスで方向がわからなくなった。踏み跡が沢山あってわからない。連れて行ってくれ」とのこと。一緒に丸山に向かう。ポタンブチの東の谷を通り丸山に登った所で別れた。

ストリートに日本庭園に下るとガスは晴れた。鈴北岳に登り返し御池谷ルートに向かう。全然人が通っていない稜線を辿り、峠から御池谷の下りにかかるそうです。雪の轟だ。尻キードで楽しみながら下って行く。

下るにつれて雪がゆるみスベッともくる所もある。湖の谷の御池谷を岩場に注意しながら林道に出た。(平成9年3月20日歩く)

冬の御池岳登山について

一般的に笠掛峠から御池谷の登山道に登る人が多いのだが、御池谷の積雪はすごい。よほど冷え込んだ時以外はかなりもろいので大変だ。初めての時は合や雪の状態が悪い場合は、鞍掛トンネルの手前まで車で入り、トンネル入口の右から巡視路に登る。杉林の中に道が続く。登りつめて左に行け、鉄塔を過ぎるとすぐ鞍掛峠に着く。鞍掛峠の登山道は鈴北岳に向かうと意外楽に登ることができる。

△コースタイム▽

- 鞍掛峠(10分) 巡視路入口(1時間) 鞍掛峠(1時間) 鈴北岳(30分) 丸山(15分) 南峰(10分) ポタン岩(20分) 南峰雪原(30分) 丸山(50分) 鈴北岳(1時間10分) 御池谷林道(10分) 鞍掛峠

△地形図▽昭文社「14登山・伊吹・藤原」2万5千1巻立

△交通▽鞍掛峠までマイカー利用 (長野県)

エリア別 徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々⑧

まぼろし いけ だけ しやうりやう せん お いせ だけ しやうりやう せん 幻の池を巡る・御池岳主稜線

私が本格的に鈴鹿の山に登りだしたきっかけは御池岳である。大石ヶ畑の奥から御池谷を登ったが、途中で道に迷いけもの道に入ってしまった。そのまま付近の世の急斜面を辿り突撃して稜線に登り、鈴北岳・丸山・奥ノ平・ポタンブチと回って下ってきたが、帰路の日本庭園手前の分岐で迷ってしまった。当時は道標がすっかりしていず、2日近い雪原の中に半峰稜の広場があるだけで、鈴北岳への道を登ったつもりだったが、方向が違ってしまうに感じて半分坂まで引き返した。日本庭園や石池方面に進みルートを探したが見つからない。分岐まで引き返し急方に登れ、腰を下ろして地図を見ていさ、鈴北岳に向かう道の奥の世の世の中に風化した白い板切れを見つけた。よく見ると平ノ口の文字が読みとれた。急いで鈴北岳に登り御池谷を下ったが、谷の途中で暗

くなってしまった。

それから御池岳のスケールの大きさと人を引きつけぬ奥の深さに引かれ、毎年3〜4回は登っている。御池岳の広大な山頂部は、ヒルコバの南から日本庭園へと続く谷、それと奥ノ谷の源流部を挟んで、鈴北岳から藤原岳へと続く山頂部と、もうひとつは日本庭園の西に突き上げ丸山・奥の平と続く主稜線があるが、この主稜線を歩く人は少ない。昔、御池岳には7つの池があり、雨乞の際には7つの池を巡ったと言ったことが、現在に知られている池は奥ノ池だけである。

平成3年の12月に主稜線を踏破した。神秘的な雰囲気をもつ新ルートは、御池岳の峰に深く入り込んで、原生林を思わせる深い樹林とカレンデュラは水苔に覆われている。春にはバイケイソウの群落とオン

原生林を思わせる主稜線新ルート



ダが林床を覆い、その中をけもの道がどこまでも続く。幻の池を巡るこのルートは、四季折々に素晴らしい自然を満喫することができる。

国道306号線を大石ヶ畑の奥の鞍掛峠まで入り、臨の手前の広場に駐車する。国道を少しもどると左上に小屋があり、その下に迷霧の遊歩路が山に入っている。この道を登ると、横の谷で水を溜め、うっそうと繁る杉林の中を登り、支尾根から左に谷を渡って登りつめる。右に曲がり谷の上流

を渡って平坦な道を進む。この道筋でよく山岳に出会う。山腹を登きながら進ると鉄塔の下を通り、次の鉄塔を過ぎると道は右に折れる。山腹を登きながら緩い登りが続く。標峰の下からつづら折れの急坂が続く。登りつめると、鉄塔の下に標峰に着く。眼下に鞍掛トンネルに通じる306号線と三國岳が望める。ここで小休止。

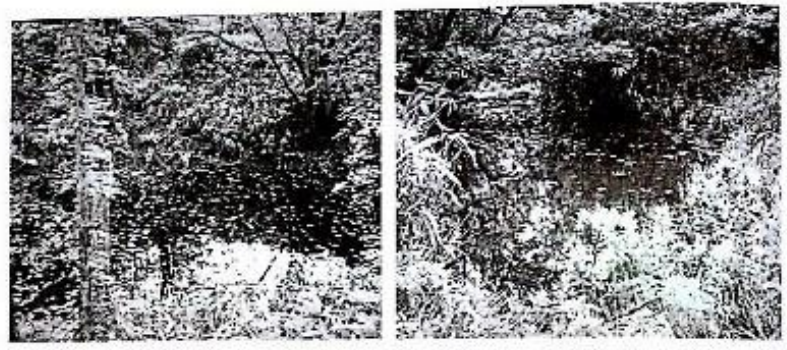


塔から樹林の中の道が続く。登りつめると灌木と石の稜線に変わり広場に着く。さらに登ると次の広場から左半に御池山、伊吹山そして湖北の山々が展望できる。眺望を楽しんだ後ヒルコバに向かう。鈴ヶ岳の山頂を過ぎると前方に広大な草原が広がり、左に鈴北岳、奥に丸山が見える。そしてこれから起る丸山への主稜線を確認して灌木の中を下ると、鞍掛の正面で道は左斜めに向かうが、ストレートに下ってヒルコバに着く。樹林の中、右に広い谷が下りてヒルコバの印が残っている。山腹を右に回り込みながら緩い登りのけもの道を通ると、右下から谷間に谷が入り、谷に下って右に回り込み尾根にのる。尾根の東側は笹に覆われているが西側には柔らかな樹林がどこまでも続いている。この樹林の中、印を追って登ると、水を漕いだカレンフェルト

を見かけた。笹原もあるが方向を見失うような深い笹はない。細い印を辿りながら緩い下りを進むと、右下に大きなドリーネがあり、底に黒い水が溜まっている。「丸池」と木に表示してある。回りは樹林と笹に覆われ陰気で暗いが神秘的な池だ。前方に丸山が見える。

の尻根に変わり、左手に鈴北岳が見えてくる。登りつめると木に大きな紐の印があり一升瓶が転がっている。この右下の笹の窪地に幻の池「御池」がある。上からは見えない。印を追って下り、池の縁を右に回り込むと「御池」と書かれた古い板切れがある。この「御池」は里の娘「お花」が池の主に入浴したという伝説の池で、地元の人が酒と花を供えている。この南にも窪地があり、通常はヌタ場だが雨の時期は池になるようだ。

灌木の長い稜線ではっきりしないが稜線をさらに進むと、生え込みに変わる。1182分のピークと思われる。右に草地の広場があり西に展望が開け、先端の岩場に行くくと180度のパノラマが展開する。右に彦根・長浜・彦根湖・その奥に湖北の山々から比良山系、手前にはミナガ峠から天狗堂に続く稜線、近江側の山並みには綿向山と雨乞岳が一際高く聳え、その左に鈴鹿の主稜線が続く。さらに稜線を進むと左手の笹の中に草原の広場が現れる。感じの良い所で鈴北岳を望むことができる。笹の混じる樹林に入り、左斜め下の鞍掛から右の窪地に下って左斜めに登る。この窪地もヌタ場になっている。春この付近でクマガイソウ



丸池 御花池

池に下って左に進む草原をトラバースして樹林の中を丸山に向かう。右に回り込みながら登りつめて、オオイタヤマイゲツ林の中を進むと丸山に着く。南西ポタンブチ方向に進むと灌木に変わり、草原の台地に出て、南西に展望が開ける。ポタンブチから南に続く御池岳南側の笹原と樹林、その先に鈴鹿の連山、そして近江側の山々が幾重にも重なり合い続いている。丸山と違い人が入っていない。雄大な眺望を楽しみながらの昼食は最高だ。向この支尾根を西に5分も下ると、谷に空地があり通常はヌタ場だが、この季節には浅い池になっている。丸山から鈴北岳に向かう登山道を真ノ谷の源流に下って、広い谷を左に進み、ドリーネや奥ノ池をゆっくり散策しながら鈴北岳に登る。鈴北岳で360度の展望を楽しんでから鞍掛尾根を下る。鞍掛尾根も広大な笹原が続く、正面に笠置山、国見岳、鳥帽

子岳、養老山脈、右下に伊勢野野を見下ろしながら鞍掛峠に下る笹原のルートは最高だ。山腹を斜めに巡視路を下って鉄塔の下を通り、杉樹林の中で道は二分する。広い谷を右に下ると鞍掛トンネルに着く。そのままうっそうと繁る杉の林を斜めに下ると伊勢谷の林道に着く。

今回はバリエーションルートとして鞍掛や鈴ヶ岳を通過したが、最良コースは御池谷からヒルコバに登りこの新ルートをとるとよい。この新ルートでは私も鹿、カモシカに何回も出会っているので楽しみだろ。下りは鞍掛尾根の途中の支尾根から巡視路を下ると早い。

△コースタイム▽  
 鞍掛橋(1時間15分) 標峰(25分) 鈴ヶ岳(10分) ヒルコバ(45分) 1182分(40分) 丸山(45分) 鈴北岳(45分) 鞍掛峠(35分) 鞍掛橋  
 △地形図▽昭文社「14 笠置山・伊吹・緑原」 2万5千1:50,000  
 △交通▽マイカー利用  
 ○鈴鹿の山域を歩くには「鈴鹿の山と谷」(西屋 寿一著)を参考にさせてもらっている。(笠置野 明)



大阪支店オープン記念企画!

# 九州百名山と世界の山

ハイキングから  
登山サミットまで

※全コース大坂発着料金です。☆他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。(無料)

**東南アジア最高峰 6日間  
キナバル山 (4101m) 登頂**  
◆ 期間・代金 1995年3月27日(月)~4月1日(土) 168,000円  
キナバル山は砂漠地帯、標高4101m。東南アジア最高峰です。4000m圏にチャレンジしてみませんか。

**台湾最高峰登頂! 5日間  
玉山 (3952m) と阿里山**  
◆ 期間・代金 1995年3月17日(金)~21日(火) 118,000円  
玉山は台湾の中で最も高く、標高3952m。中華民国山岳協会より承認されるガイドも同行します。

**ニュージーランド 6日間  
MT. クック ハイキング**  
◆ 期間・代金 1995年3月28日(木)~4月2日(日) 193,000円  
北島を巡る、マウントクックもまた、夏には素晴らしい景色や自然の美しさを見せてくれます。

**ヒマラヤの大展望! 8日間  
プーンヒル (3194m) と  
シャクナゲトレッキング**  
◆ 期間・代金 1995年4月9日(日)~16日(日) 248,000円  
標高ヒマラヤやシャクナゲとアンナプルナヒマール、クワナゴリの大展望とトレッキング。

**世界遺産条約登録地  
宮之浦岳と縄文杉**  
◆ 期間・代金(各コース別) 1995年3月23日(木)~26日(日) 98,000円  
Aコース / 宮之浦岳から縄文杉まで  
Bコース / 宮之浦岳登頂と縄文杉

●お問い合わせ・お申し込み先  
 **アミューストラベル 株** ☎ 06-265-3303  
 〒541 大阪市中央区本町4-5-3 FAX 06-265-3306  
 本町三井ビル2号3F  
日本旅行業協会会員 運輸大臣登録一般旅行業(旅行業)第7913号  
 主幹 ショッピングアソシエーツ(株) 代表取締役 藤原 隆雄(株) 代表取締役 藤原 隆雄(株)

の伝承地である。明治二五年に郷社から皇社に昇格し境内社を三殿に改め、近辺の諸社の神々を合祀して立派な神社になっている。



◎ 松山街道半坂越え  
 男坂(伝承地)の半坂の小峠越えの起点は、明治中頃の女寺跡改修まで、大和国中への松山街道として利用度が高く、「宇陀の半坂小峠の茶屋で泣いて別れたこともある」と馬子歌にまで歌われている。現在は半坂に文久二年(一八六二)銘の石灯籠一基、「天下太平往米安全」の刻字が近世の繁盛ぶりを偲ばせるだけで、粟原への行き米は少ない。

近世の経路は松山の町から川向か、五十軒にまで小峠に入り、芝生・馬取峠の小丘陵を横切り半坂に入る道である。  
 阿紀神社から古い目の生観で著名な禅寺松蔭院(大庄屋山岡家)と天竺堂寺を回り、岩室の織田家菩提寺であった徳源寺に織田家墓地を訪ねる。西山から岩室の丘陵を越え芝生か姫河原を経て半坂に入る古道は、荷駄の輸送に重要な道で近世も利用度が低

かった。小附の集落から1時間足らずの半坂へ2.5kmの松山街道をたどる。  
 小附の初瀬には「右にはいばら 左はま」の自然石の道標が横たわり、半坂集落の分岐点に「左うた道 享和(一八五〇)成年」と、法眼ほか四人名・半坂村・観音講中と刻んだ1802年建立の道標がある。松山街道の道標は他に、本町の伊勢辻に「すぐ京大坂」、下山の橋原街道への分岐点に1851年建立の「右石 みわ さくらい 嘉永壬子年」がある。岩室の無福寺境内の「石 みわ さくらい」の道標は移動された物だろう。半坂から小峠を越えて粟原までの2.5km弱は、近世そのままの山道が残り、国道166号の粟原バス停へと通じている。

◎ 粟原から餘余・磯城へ  
 粟原集落を山の手へ上りつめると粟原寺跡で、奈良時代の金堂・三重塔の礎石がそのまま残っている。鎌倉時代の十三重石塔は明治末に半坂道から移動したものである。  
 談山神社所蔵の露盤の伏鉢(国玉)は当寺のもので、持統天皇八年(693)に仲臣大嶋が草壁皇子のために発願し起工、先ず金堂を造り丈六の釈迦像を安置し、大

船渡後の和暦八年(715)に三重塔完成と刻んだ銘文がある。当寺の重文級の仏像は粟原流れといわれ、粟原川流域の赤尾の興隆寺・外山の報恩寺・桜井の大願寺・米迎寺や、遠く長野の清水寺に祭られている。  
 粟原バス停から桜井駅まで国道を4.5km、下鹿バス停を通ると近坂から宇陀ヶ辻まで旧道松山街道を歩き、初瀬街道を桜井駅へ向かうほうがよい。  
 忍坂の石位寺は申しでれば重文、白鳳時代の石造菩薩彫刻三尊が拜める。外山山の南の谷筋を上れば舒明天皇陵(磐玉女・大伴皇女の墓がある。忍坂坐生根神社と粟原川左岸の忍坂山口神社は、ともに式内の大社に比定される古社である。  
 宇陀ヶ辻から、ほとどの桜井駅へは、鳥見山北側の外山の集落に桜井宮へ結ぶ横大路の延長の初瀬街道が通じる。粟原川の石岸沿いが初瀬街道の新道で、左岸沿いに古墳時代前期の巨大な茶臼山古墳の北側へと旧道が残っている。  
 神武紀四年の「靈野を鳥見山中にたて」の鳥見山は榛原町と桜井市の鳥見山で論争されたが、桜井の等々神社の上手の鳥見山中腹に霊野の石碑を建立した。

西行終焉の地を訪ねて

松永惠一

花はさくら



西行

平安時代後期(元永元年八一1-118V) 建久元年八一190V)の歌人。俗名は佐藤善清。祖は藤原秀郷(敏藤太)。時の内大臣藤原頼長は「重代の勇士」と記した。鳥羽院の下北面の武士として出仕し、和歌・流鏑馬・蹴鞠などに才能をあらわしたが、23歳の年に出家して西行を名乗った。出家の動機を西行の一代記である『西行物語』は、切迫した無常観によるもの、

詩心を和歌に注した七十三年の生涯。その死は花につつまれた。  
願はくは 花の下にて 春死なむ  
そのきさらぎの 望月のころ

『山家集』上巻、七七

どうか、春の、桜の花の咲く下で死にたいものだ。あの釈迦が人滅なされた二月十五日頃に。

西行はこの歌の願い通り、文治六年(1190)2月16日、数奇の生涯を閉じた。

彼の死は、当時の人々に異様な感動をまき起こした。藤原俊成は「長秋詠藻」に感深くて感懐をもよおしたと記した。

今も西行の死は人の心をつつもがある。それはこうありたいと願う死の原型なのかもしれない。

願はくは 春を彩るへ 薄紅の花盛り。排寒桜。彼岸桜。筑井吉野。山桜。そして八重桜。夜明け。金色の光がやさしく手をさしのべる。夜の間に降りた露に濡れているものすべてが、金色の朝の光を浴びて何かを話しかけようとしている。  
一陣の風が吹き、花びらを奮舞する。花びらは舞い上がり、そっと口づける。夕暮れ。うつすらと暮れなすんで行く黄昏の中で、露のように広がっている花。すべてがぼんやりと霞んだ晴月夜の中でゆったりと揺たわる。  
めぐりくる春。咲いては散る花の無情さは、老いを強く意識させる。  
世の有為無常をつぶさに見つめ、天性の

『源平盛衰記』は、能因法師などの撰述歌人に就いたものと記す。

嵯峨・東山などに草庵を結び、鞍馬寺などで仏教の修行に励んだ。その後、能因法師の足跡を追い陸奥への旅に赴き、白河関などの歌枕の地を訪ねた。帰洛後、修行の本拠地を高野山におき三十余年をすごした。この間、毎年のように吉野山に花見の杖をひき、天王寺・熊野・熊野・高野山などの社寺に参詣したり、再興の大乗修行や、弘法大師ゆかりの讃岐の通達寺に草庵を結んだりして修行を重ねた。

晩年の十年ほどは、伊勢国二見浦に近い安養山に草庵を結んだ。文治二年(1186)詔でこの高野にもかかわらず、西行の争乱のさなかには平重衡によって焼かれた東大寺を再建するための勧進に平泉に藤原秀衡を訪ねた。その往時歌集に立ち寄り、源朝明に流朝基の法法位などを授けた。  
文治五年(1189) 葛城山麓の弘明寺に草庵を結び、翌年2月16日未時(午後2時)入寂した。享年73歳。

『古今各種歌集』には九十四首入集。歌道と仏道の両面からの名高き『西行物語』『西行集』などを記され、『西行』西行の伝説が載る。家集『山家集』などがある。

弘川寺

御池山弘川寺は、葛城山の西麓に位置する。本尊は養師如来。天智天皇の四年(665) 後醍醐の祖役小角によって開創された葛城七寺の一つ。天武天皇白鳳五年(687)に、御池に祈禱すれば、必ず験があったと動願寺となる。

聖武天皇の天平九年(737)には行基が、本尊の密形を感し給い、当寺で練行した。弘仁三年(812)には、空海(弘法大師)が、伽藍を一新して、真言密教の霊場と定められた。文治四年(1188)座主空寂は後醍醐天皇の病弱平癒の祈願をおこなった。御平簡の後、上皇は車駕をめぐらされた。面割。

山菜み このはの下の 隠し水

なかれの承は 流つ瀬の音

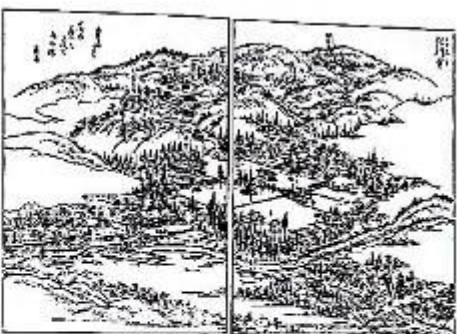
平安時代末期、西行は空寂の法徳を慕って草庵を結び、この地に入寂した。戦国時代河内國の守護吉山氏は、兄弟で守護職争いをつづけ、國中大いに乱れた。寛正四年(1463) 葛山城落城の会波を被って、草庵をすべて焼失した。江村時代、似雲は西行堂を建て終生西行の影影に尽くした。境内には西行、似雲をはじめ多くの歌碑・句碑がある。

西行塚

西行の塚について『河内名所図会』は次のような話を伝える。

西行寂滅後五百経が過ぎ、その塚も何時しか草野の下深く埋もれてしまった。名山幽境を遍歴して居住を定めず、時の人から今西行と呼ばれた似雲は、西行の塚を見出し手厚く弔いたいものだと考え、探し回ったが否としてその所在がわからなかった。石山寺の大徳僧に、「なにとぞ西行法師の葬られし所を吾に示現したまえ」と祈願した。真山を訪ね回り、空しく帰るうとしていると、山菜より十二、三ばかりの童子が現れ、「この山中に行塚という古い塚があります。案内しましょう」と先に立って案内した。本堂より二町ほど奥に入った山中の、堆くになった所で、「これが行塚です」と教えて、かき消すようにいなくなった。いつの頃にか西行の西の字を忘れて行塚と言われるようになった。

そこで似雲は文京上人手彫りの西行像を安置した西行堂を建て、西行の愛してやまなかつた桜を植え、懇ろに西行の遺業を継ぎ、手厚く弔い、終生西行の影影に尽くした。似雲は、宝暦三年(1753) 初夏83歳で逝去。西行の塚の傍らに葬られた。



弘川寺 (「河内名所図会」)

コース概観

今回のコースは、西行終焉の地として名高い弘川寺から葛城山へ登る。弘川寺では桜・海棠のあでやかな出迎えをうけ、西行の塚に詣でる。弘川寺からは大和葛城山に登り、大和・河内の歴史をたっぷり楽しめ、御所へ下る。  
ファミリーハイキングコースとしておすすめのコースである。



の風景はぜひ見て欲しい。4月の中旬に見事な桃色の花をつける。近頃ではほかに例をみない。樹高8尺。幹周囲7尺。樹幹はもう二百年十数年くらいになるといふ。まことにあでやかな風情。  
山頂の前から左へ。ファミタ谷に沿って林道を行く。やがて道が細くなり、谷を離れ

近鉄長野線の富田林駅で下車。駅前から金剛バスに乗る。8時50分発の河内行き。終点で下車。9時35分発のさくら坂行きの場合は河内小学校前で下車。300ほど歩くことになる。河内のバス停から少し戻り弘川橋を渡ると弘川寺。村の東のはずれのやや高いところにある。山頂をくぐる。正面に本堂。右に地蔵堂。奥に塔頭。西行堂がある。

西行の亡くなった年の2月16日は、現行の大陽暦に換すと3月30日にあたる。うららかな春の日差しに匂う桜の花を、西行は死の味から眺めた。宿命は空に消えて、心は霞々、浄土へ導かれる思いに満たされた。見上げると満開だった。花の雲が弘川寺を覆っていた。ふうわりとやわらかく、静かに妖艶に。気品に満ちたサクラ色。花が咲いたのを見て、桜の木の豊かさに気がつく。目の前にクローヌスアップされた薄紅、白、桃色などの桜の花があらわされる。頭上にはびらがる花々。光と風の中で、枝がしなうたひらに桜色の海が舞う。花から花へ舞い回る蝶になったかのような心の弾みを感じる。つぼみは紅色のがくくに包まれている。濃い紅色が濃くなり、白っぽくなると聞く。「朝日に映えて風が出てくるまでのわずか

な時間、それが花の命」「そばに人がいるとだめ。花とふたりきりで、話すんです」それぞれの人に、それぞれの桜の見方がある。

西行の塚は本堂敷から坂道を登った山腹にある。古い塚というものは、どこでも幽霊な中に、深っぼい暗さが漂っているものだが、塚に包まれた西行の塚は明るく、すがすがしさが心にひろがってゆく。  
仏には 桜の花を たてまつれ  
わが後の世を 人とぶらばは  
《山家集》上巻 七〇

自分の死後、帯てくれる人があんならば、自分の最も愛する桜の花を供養としてほしい。  
死ぬ時も死んだ後も、桜の花なしでは考えられない西行。それがそのまま叶えられた。

昭和五十八年に西行記念館が開館した。没後800年を記念して西行桜山園遊路が作られ、千本の桜が植えられた。  
温かく迎えてくれる境内には、やわらかな雲間気が深い、自然と心が和んでくる。お弁当のおにぎりの上に昔もななく花びらがふりかかると、そのままその口に通さる。

中根金作氏設計の庭園と府の天然記念物ブ場、赤滝、白粉登堂と続く。食堂の前を右に少し登ると葛城山頂(959.7m)である。

《コースタイム》  
近鉄河内長野駅(電車約45分) 富田林駅(バス約20分) 河内(5分) 弘川寺(50分) 鉄塔(50分) 雅芸谷林道(1時間) 五ツ辻(30分) タイヤモンドトレイル(20分) 葛城山頂(1時間30分) 葛城ロープウェイ前(バス約15分) 近鉄御所駅(電車約45分) 近鉄河内長野駅

- 《費用》  
近鉄河内長野駅→富田林駅 380円  
富田林駅→河内 330円  
ロープウェイ前→御所駅 240円  
近鉄御所駅→河内長野駅 540円  
《地形図》2万5千円冊  
《問い合わせ先》  
明文社「52葛城山園遊路」(七上山)  
金剛バス 077-211-223 2286  
弘川寺 077-211-9 (3) 28814  
境内は無料開放  
西行記念館開館日は4月1日～5月10日  
10月10日～11月20日の40日間です  
庭園拝観と西行記念館入館料 5000円

### 海が見える2等三角点の山

## 黒鉄山

初級コース(★)

慶佐次 盛一

2等三角点のある山は、20万分ノ1の地勢図にも三角点の記号が記されていて、ピークハンターにとってはたまらない魅力を感じられる山である。本誌でおなじみの山形蔵之さんなどは全国の1等三角点の山を殆ど登りつくしてしまっ、次は2等三角点の山の元登に情熱をかたまけておられるくらいだ。

ここに取上げられた黒鉄山は、20万分ノ1の地勢図「播磨」の、赤穂市北西部に位置する山である。いつも気になっていた山だったが、友人に誘われてやっと登る機会が訪れた。黒鉄山の名は20万の地図にも記載されているから、きっと登路があるだろうと、詳細を調べるために2万5千分ノ1の「播

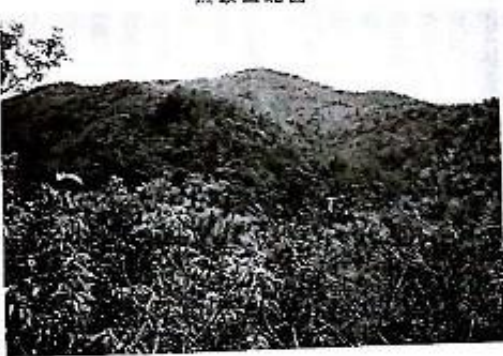
前二石」の地図を広げてみる。なんと、一本の登路も記されていないではないか。ナブコギは昔懐かで、とにかく現地で登路を探してみようと思わなくてはならない。誰でも登れる立派な登路がついていた。また山頂からの瀬戸内の風景も素晴らしい。初級向きの山として紹介したい。

JR播磨赤穂駅で下車する。京都、大阪方面からなら、青春18きっぷが発売されている期間はお得となる。播州の赤穂浪士、大石内蔵助(良雄)ゆかりの地だけあって、早津山陣痛陣太鼓を打ち鳴らす良雄像が出現してくる。駅前には観光客で賑わい観光案内所もあり、レンタサイクルまである。

駅前から神姫バス湯の内行きに乗る。終点の湯の内が近づく、山陽自動車道越しの正面に、大きな反射板が立つ山が見えてくる。その山が黒鉄山だ。終点湯の内は静かな市街住宅地だ。さて、どこから登ろうかと地図を広げていると、近くの方が黒鉄山ならちゃんと登路がありますと親切に教えてくれた。地元では有名な山らしいが、地形図に登路がないのは腑に落ちない話だ。

まずは教えられた通りに進む。新幹線のガードをくぐり抜け、すぐに右折。もう一

黒鉄山北面



度ガードをくぐり抜け、新幹線の高架沿いに西へ300mほど歩くと、右に広い地帯が分岐する。道標こそないが、これが黒鉄山の登山口だ。広い地帯も進むほどに山道になり、大津自治会の道標が現れる。

お稲荷さんを祀っているのか、赤い鳥居の前を右折すると急登が始まる。沢状につけられた道の周りは暖地性の照葉樹が多く、石がころころ転がって歩きにくい。しかし

したい。

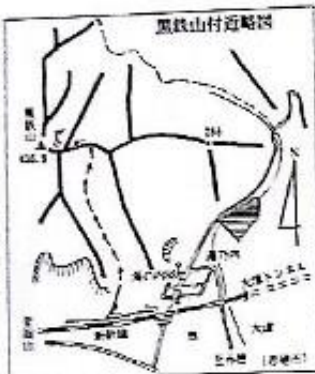
#### Aコースタイム

JR播磨赤穂駅(神姫バス10分)湯の内バス停(10分)登山口(10分)赤い鳥居(35分)主稜線(10分)黒鉄山(1時間)湯の内バス停(10分)JR播磨赤穂駅  
△地形図V2万5千11号III三石

5万11号播磨

道はしっかりしている。ここはあせらず一息入れながら登って行こう。左側の木立の際に小さな祠が覗き、崖際の気路も残っている。振り返れば瀬戸内の海面が次第に低くなり、崖末に高度を稼いでいるのがわかる。

やがて主稜線に出ると、バスから見えていた大きな反射板がもう目の前に迫っている。傾斜も一度にもおみ、海を見ながら登り、傾斜も一度にもおみ、海を見ながら登る。傾斜も一度にもおみ、海を見ながら登る。傾斜も一度にもおみ、海を見ながら登る。



おそらく地元の人達の手作りであろう、簡単にしつづらえた腰掛け用の腰置台があり、南側に瀬戸内の海が一望できる。眼下に赤穂陣、陣久屋、赤穂陣、小豆屋などがある。心算もつむきし風景は、時の移りも忘れさせてしまうような頂だ。

登山に必要なものは、  
登山・初歩  
すべて揃っています。  
足にピッタリ/  
登山靴のことならお任せ下さい。  
(定休・火曜日)

〒604 京都市中央区丸太町通聖川東入  
☎ (075) 211-5768  
☎ (075) 231-0318

山とスキーの専門店  
**京都 ムラカミ**



特選コースガイド②

三重中部

### 好展望の霊山

## 矢頭山

初級コース(★)  
小山 ひろし

JR及び近鉄津駅前から、近鉄久居駅、近鉄川合園駅経由の三重交通定期バス室の口行きが出ている。久居駅から室の口までは約30分、川合園駅からは約20分である。

室のロバス停から波瀾川の源流に向かって杉木立の中の舗装林道を1時間(3・7km)ほど進むと「矢頭の大杉」がソッと立つ波氏神社中宮に着く。立派なログキャビンが1棟あり、キャンプ場になっているが、オフシーズンが長いようだ。キャビンは別にトイレも設置されている。林道をそのまま進めば、矢頭峠(「上峠」)を越え、美杉村に入る。キャビン前の案内板には次のように記されている。

「矢頭山は、今から二二六〇余年の昔文武天皇のみ代に、役の小角という人が開いたという霊山である。一片の雲もなく晴れたらつた或る日、小角が天の一方を眺めていると、にわかには二本の白羽の矢がとび下りてきて、山の峰をかすめ麓の里に降下した。それで小角はこの山を矢頭山と名づけ尊厳し護土龍現を祀ったと言ひ伝えている。(中略)

由緒あるこの霊山は高さ七二三米で南から牛ヶ嶺(南ヶ嶺)、不動ヶ嶺、風尾ヶ嶺、御峯、地蔵嶺とそれぞれ峰が寄り合って高く聳えるから中勢は勿論北勢、南勢からも眺められ漁船寄港の目的地ともなっている。

「志町」

登山口は大杉から林道を10数分進んだ左手。7・8分間の間に二つの登山口がある。どちらをとっても約10分後に不動流の所で合流する。ただし、手前の登山口をさそら、不動流の岩壁にある、二休の緑影仏を見落とすかも知れない。この流は落差約15分あるが、水量は乏しい。

流から2・3分進むと左手に「不動雨宿り小屋」、さらに15分ほどの所に「榎林憩小屋」がある。この小屋のすぐ上で道は二つに分かれている。標識通り左手前の方

矢頭山山頂にて



を登る。ここから頂上まで、胸突き八丁という感じの道がずっと続く。杉と檜の植林帯をゆっくりと登る。頂上までには2か所、湧き水場あり。の標識があるが、期待はできない。榎林憩小屋から約35分ほどで、大日平展望台に出る。「御峠」ここより375Mの標識があり、小さな祠に現行の小銭に混じって、算水通宝が3・4枚残っている。起伏



の激しい稜線を足もとに気を配りながらさらに約15分ほど行くと、ほぼ360度の展望のまわく、矢頭山(御峯)頂上(723m)に行く。

東に錦野町、西に美杉村、南に高嶺の山々、北に白山町、北東に津、久居、一志町、その向こうに伊勢湾が広がっている。抜群の展望であるが、その中に開蓬の名のもとに括りこまれた丘墓の無残な姿も見える。国米えて山河蔵ぶ。これが今の日本の状況である。

標識は、矢頭峠(「上峠」)への急坂を一気に下る。約40分で峠に立つが、ゆっくりゆっくり足もとに充分気を配りながら下るのが肝要である。安全のために張られているロープは既に木にくいこみ、一部は道をふさぐ形になり、今では決して安全といえない状況だ。張り替えようにも深く木にくいこんだナイロンロープはびくともしない。この下り、シエンランが多い。盛りは4・5月頃だろうか。

矢頭峠は美杉村と一志町を分ける。左(南西)へ下れば美杉村山口、下之川、多々(丹生庚方面、右(北東)へ下れば1A 湯で登山口の波氏神社中宮に着くが、この下り、突き先のハイ橋がひどい。これと今の日本の現実の一つである。

- ▲コースタイム
- ▲室の口(1時間) 波氏神社中宮(10分) 不動流(20分) 榎小屋(1時間) 矢頭山(40分) 矢頭峠(10分) 波氏神社中宮(1時間) 室の口
- ▲地形図② 2万5千 伊勢奥津・大河内・5万 1 本木

OUTDOOR LIFE SHOP **ADD SPORTS**

今年もやってきましたノアドの周辺がまうくろになる季節が!! へそくりもって、アドに行こう!!

**1/21(土)-2/26(日)**  
**決算大処分!**

※尚、勝手ながら2/27日~3/2日の間は臨時休業致します。

営業時間 10:30~19:30 定休日 毎週火曜日  
☎0792-97-8098 Fax0792-97-5352  
〒670 姫路市東辻井2-6-37

行者信仰の霊場

行者山

初級コース(★) 内田 嘉弘

『奥の細道』(福知止温著)の第四十四頁に、行者山について、「千代川町湯井の朝日山の頂上付近は巨岩奇岩が露出し、大樹が生い繁って昼なお暗く、夏は汎なお涼しい所です。この山上は岩の洞窟を利用して、そこに役行者がまつられ、行者信仰の霊場になっていました。湯井から登る途中には、かつて土堂伽藍が建っていたという朝日山淨運寺の跡があり、この山頂から登つたに独結知山千手寺から更に……」と書かれてあるから、朝日山が本来の山名のようにだが、国土地理院発行の地形図には行者山とあり、また、地元の人々も行者山と呼んでいるからここでは行者山として紹介する。



理を把握し、ついで神通力(超能力というべきか)を身に付けたという。「続日本紀」には、彼が民心を恐ろすものとして、興薬頭(きょうやくがしら)になった弟子の韓(かん)國(こく)広(ひろ)足(あし)の密告で伊豆に流罪になったと記されている。この間、役小角は空中を飛翔して富士山に登ったとか、朝庭の刺客を妖術で翻弄したとか、いろいろなお話が伝えられているが、とにかく三年後には赦免されて大和に還った。大和山に還郷を開き、多くの弟子たちを育て、そこでも葛城山に連なる山々(金峯山)に、潜伏した鬼を便殺し「虹の橋」をかけたなど

千代川駅から西へ国道9号線をくぐり坂を、千代川小学校の端を左に折れ、正面に行者山を望みながら進むと千代川町湯井左に松尾神社がある。近くにおられた農家の方にルートを尋ねると、「行者山の途中まで2年ほど前に新道を付けました。」

「9月7日に行者さんの祭りがあって、その前に道を修できれいにするんですよ……」と説明して下さい。

京都府道を通くと右に千代川配水池があって、アスファルトの道が終わり、地道になる。「とこなげ親音・湯の花温泉」の道標があり、左旧道と右新道に分かれる。新道は妙利道で車も通れるが、登り口が止まらなくなっている。旧道を登ると新道を三回横断して、新道の終点で合流する。右の支尾根へ登って行くと、行者燈(文化一二八)八月(百目)があって、すぐに祠がある。



行者燈

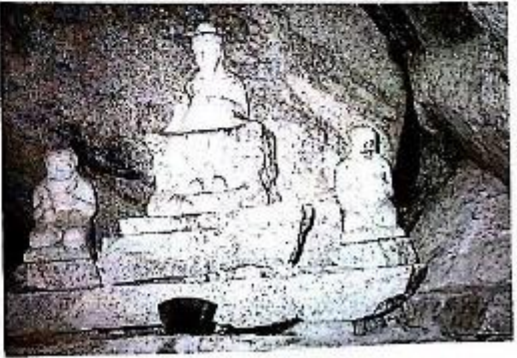
どという伝承が生まれている。この役小角を「山仏」「修験道の開祖とする伝承が広まり、日本国中の多くの霊山や修験者の集団に、彼が関係したように説かれてきた」とある。

この行場を通き、すこしの登りで行者山(431・0m)に着く。二等三角点のある山頂で、「近畿山岳愛好会」「南つつじ牛歩会」の木札がくくりつけてある。山頂は深木帯で囲まれているから展望はない。

行者山からは北西の稜線を行く、左に半国山が木々の間から見え、一旦下り登り直して登徳山、クロマツも生える尾根を西に下ると峠で林道が降りていた。左へ行くと15分程で新築地親音「新始撒山千手寺」で、現在臨濟宗妙心寺派に属し「とこなげ山」ともい、「眼病」に靈驗あらたかな寺として親しまれている。

寺伝によると大同二年(807)弘法大師の開創といわれ、大師が唐より播磨の海上で本願にむかい「邪路」を天に投げ帰国後その行方を奈良の春日大社にうかがい「丹波國佐伯の庄山内村の北峰紫雲山の松の枝(山門の右側の松)に言かっている」との地託により白鹿に導かれてこの地に走られ、後、この地を「鎌倉」、山号は「独結

行者山の岩窟にある行者像



島屋をくぐると行場、岩窟が出て来て不動尊、役の行者が祀られている。

役小角については『深白の民・山鳥の謎』(佐治安房著)に、「醍醐天皇六年(八二四)、大化改新の約十年ほど前に大和の葛城山麓一帯葛城郡茅原に生まれ、三十二才のとき葛城山に登って修業したという。彼は山のなかの岩窟に孔雀明王の像を定置し、草衣木食して持現能方、つまり現術でもって真

撒山」である。本尊千手観音を安置するのて「千手寺」という。と山門の案内板にあった。

「眼病」に靈驗あらたかな寺については、「……その後、霊場の高峰に毎夜怪光が現れたため、吉備某なる者が矢を射ると、矢は親音の左目に当たったので、彼は罪を悔み、末代まで弓箭を捨てたことを誓ったという。これより親音は眼病に苦しむ者に靈驗を与えるとして信仰を集めたと伝える。」(京都府の地名)日本歴史地名大系「千手」と出ている。

千手寺の朝比奈善徳をお参りして、境内を見ると「北緯二五度一分五七秒・東経一三五度二分二五秒」と石碑がある。後は参道を下って梅花のバス停留所に着くのみである。(平成5年3月6日歩く)

- ▲コースタイム▼
千代川駅(15分) 松尾神社(30分) 行者燈(35分) 行者山頂上(10分) 登徳山(15分) 独結親音(25分) 梅花バス停
▲地形図▼2万5千1:10000
5万1:50000 京畿西北編
最寄り駅 JR山崎線 千代川駅
最寄りバス停留所 梅花

特選コースガイド④

播磨

兵庫県最南の1000m峰

# 黒尾山

くろおさん

中級コース(★★)

須磨岡 輯

兵庫県一宮町内の国道沿線を北として  
いると、左手の車窓から山頂に無線塔のあ  
る山が見え始める。これから登る黒尾山で  
ある。

登山口となる乗取へは、JR姫路駅前か  
ら神姫バスに乗り、引原川を渡ってすぐの  
杉田バス停で下車する。引原川沿いを20  
0mばかり南下すると乗取集落の八幡神社  
の石柱前になる。これを右折し村の中を進  
む。集落が終わり、林道へかかるとすぐ墓  
地が目に入る。杉や柏が植林された薄暗い  
地道の林道が続く。

歩き始めて約1時間、谷が開け、左に乗  
取川の小さな流れ、前方にこれから登るは  
げ肌の急坂がせまり、右に「不動権700

」の看板が立つ。こゝから一級しきり。

林道を急坂まで詰め、沢へ下るが荒れて  
いて歩きづらい。園芸地帯の地形図は沢  
を直登して緩坂へ上がっているが無理であ  
る。しかたなく伏探渡後のほげ肌の袖道に  
取りつく。足元は明れやすく、掴む草木も  
無いのでバランスに注意しながら進む。急  
登が続く。道も汗をかけるので時々一息入  
れ、コースの修正をしよう。振り返ると、  
一宮町内の家並が近くに見え、高落差80  
0mを実感する。

檜の植林帯にさしかかると急坂も緩み、  
踏み跡を確かめながら進む。背丈程もある  
笹垣へ入ると主尾根のコースへ出る。これ  
を右に進めば10分程で無線塔が現れ、ま  
まなく2等三角点の黒尾山(1024.7m)  
の山頂に着く。

明れた日の山頂からは北西に三室山、後  
山、東は瀬木越しに暗峠山、南は水鏡山、  
北方の水ノ山も指図出来る。現在使用され  
ていない鉄塔の横の日前りでは、フキが  
大量に芽を出していて時期が合えば収穫が  
期待出来る。

昼食を終え、風扇も楽しんだら下りにか  
かる。三角点の位置より東北へ延びる行  
者尾根を下る。雑木で取りつき口がすこし



黒尾山付近略図

菩薩を祀った祠を過ぎて急坂の下りが続  
く。この辺りは雑木林で春は新緑、ツツジ  
が染しめる。

足元を気にしながら進むと目前に大岩が  
連続して現れ、雲梯の対象なのだ。花  
筒が据えられている。最後の大きな手前で  
道は右へ下っているがこれは無様し、大岩  
の腹を巻く。さらに進み沢を渡れば往路に  
歩いた林道が見え、「不動権」の看板の前  
を通り林道へ出る。

穏やかな村の中の道をバス停へ向かう。  
途中、八幡神社へ立ち寄り今日一日の無事  
を報告しよう。

### ▲コースタイム▼

杉田バス停(20分) 林道入口(45分) 林道  
終点(1時間30分) 主尾根(10分) 黒尾山

新ハイキング選書

●日本山岳会選定●

第15巻 好評重版発売中  
第16巻 最新刊

## 日本二百名山ガイド

## 日本二百名山ガイド

《西日本編》

320頁 1500円  
A5判 各定

発行所 新ハイキング社

東京都北区滝野川7-6-13

(03)-3915-8110

振替東京3-146815

●掲載でのび文は送料当社負担

黒尾山の三角点



黒尾山の無線塔



判りづらいため、ゆっくり探そう。

すぐに杉林の中、急坂の下りになる。足  
元が滑るので注意しながら約10分も下ると  
「不動権」の石柱が目につく。流までは  
往復20分程なので時間があれば覗いてみた  
い。

行者尾根は無線塔の送電ルートだったの  
で鉄製の電柱が撤去された跡にその痕跡が  
目につく。さらに下って大岩の下に虚空蔵

(1時間) 不動コース入口(45分) 杉田バ  
ス停

▲地形図▼2万5千円安積

5万1山崎

### ▲参考▼

○姫路駅より時時バスの場合は曲里下車。

○マイカーは山崎インタートラック、行者コー  
ス入り口にて駐車すると便利。

○山頂より急沢へ下るコースもあり、所要  
時間は30分増。バスの時間に注意。

山岳夜話 (第8回)

小泉誓純

水上に咲いた徒花 (三)

飯盆の残りメシでインスタント鳥糞炊などの簡素な朝食をとり、ぼくは湯茶を、彼女はコーヒを飲む。

腰へのザイルの結び方を知っているかどうか、短いアプザイルンができるかどうかを彼女に確かめ、「ぼくは知っていると思うけど」という答えを得て出発する。

ザイルは9m・20斤(40斤を半分に切ったもの)と物干用を兼ねた6m・10斤。それにシュリンゲ教鞭とカラビナを少々という程度の登山装備である。

初めてザイルを使うことになったとき、ぼくは、彼女が腰に結んだ結び目を確認した。過去に、ピギナーとは言えぬクラスのパートナーのザイルが登山中にほどけて

しまうという苦々しくも危ない経験があったからだ。

結局、その日ザイルを使ったのは、滝の高差とそれに続くトラバースの二度だけだったが、眼下数十層に流れを見ながらの急斜面のトラバースは、彼女のキモをかなり冷やしたようだ。

最後と思われる大きな出合点で本流はほぼ直向に右折しており、支流が直進している。

本流の奥は険悪なゴルジュ状を呈していて、細い滝が見える。本流を進んで浅い谷に積も重なる巨大な流木群の上に登り、そこから滝に取り付いてこれを越えると、意外とすくも明るくなり、おだやかな源流となる。やがて水が涸れ、なおも沢を忠実に辿ると、傾斜のきつい長いガレ場となり、上部はさらに急となる。中ほどから左の樹

林帯へ逃げて、木をつかんで急登すると、藪こきもないうまに縦走路へ出た。これを右(西)へ五分ほど登ると、そこは高度も坐ったことがある馬ノ鞍三角点だった。

彼女は、沢でザイルを使ったとき以上に、ザイル省路での二度目のあるこのガレ場で、すく急登したという意味のことを言った。

「ハハハ、そんな顔してたね。あんな所は少々ズルズルと行きかけても、すぐに自然に止まるんだよ。身体を起こすようにしてから、だいぶ楽になっただろう。」

「うん、でもあれはなかなかへわかっちゃいるけどデキラレス」っていう感じ」

「あれっ、そんな古い唄を知っているのか? それは積木寺の唄だぞ」

「うん、CDで全乗みたいなのを聞いたの、デザイナーをしている友だちの事務所ですごくおもしろかった。クラッシュばかりがずらりと並べてある中に、それが一つあるのを見つけたお客さんは、ニヤリとするそうよ」

「ハハハ、わかるわかる」

あとは簡単な下降を済すのみだから、水割りを少し飲んで、のんびりと遅い昼食とする。

所で、左へ派生する支尾根を、踏み跡に従って半分ほど下り、坂が一段落した所から右へ坂をさき下って杉沢の源流へ入る。

しかし、数年前に遭った時に比べて、かなり荒れていた。彼女は、藪こきに続いて土砂や岩と共にズルズルと滑る急下降に辟易している様子だ。

「わたし、もういざっっちゃうー」

もうカッパなどもかまっていられないという風情で、彼女はうしろからそう言った。

「お好きなように。要するに自分に楽な方法で下ればいいんだから。大和谷の難所までは、ちょっととした滝が二つ三つあるだけだから、落ちようにも落ちる所が無いからね。安心してゆっくり下ればいい。休憩しなくたっていいんだけど」

やがて水が流れ出して、そのうちに傾斜もゆるやかになる。深い谷を持つ低い斜面の左半を下り、崖線も近い右岸の広い台地に二層の崖をむすぶことにする。すいなん時を待たされたもので、5時を少し過ぎた。

男どもが何人もいる場台と違って、何もかも任せておいて「釣り座」を専らというわけにはいかないで、それは明日のお楽しみとするほかない。四方八方うまくはい

かないのが、世の常というものだろう。

彼女はかなり疲れた様子だったが、若いだけに、飲むほどに食べるほどに元気を取り戻していった。

「昨日言ったってくれた唄をもう一度うたてよ」

「どっちのほうだぞ」

「長い人生、っていうほう」

「あれはぼくが即興で覚えてうたったんだから、同じ歌詞をもう一度言えないかもしれないよ」

「そうだったの。あなたが替え唄をうたってくれたのだとは知らなかった。……じゃあ、あれはあなた自身の気持ちを書いたのね……」

彼女は急にしんみりとした口調になった。「ハハハ、まあ、そういうことだ。じゃあ、うたうぞ、ははは同じように」

うたい終わると彼女は言った。「いい唄ね、メロマナーも」

「元唄では、念をきかせることはすばらしいのだから、念をきかせる必要はないから、そこを特に大きく変えてうたったんだ。……まあ、つらいと感じることができるとしても、生命とは、あるいは生き

ていることはすばらしいという生命讃歌なのかもしれないね。

しかし、中途半端な知性をもってしまっただ人間は、そう思うことにも、思わないことにも、徹し切れないんだなあ。……例えば……今日只今現在、ぼくはキミとこうして幸せにひたっている。だが、その幸せの中には、もう哀しみが芽はえている。たぶんキミも同じ感じだ。……会話は別れの始まり。……しかも地からず別れなきやならぬ。……そういう哀しみがね。……しかし、生きていりゃこそ出会えたんだ。そしてキミとの昨日も今日もあるわけだ。だから今生までこのことはつらいけど、生きてることはすばらしい」と覚えてうたったんだ」

「……哀しい幸せね……」

「それでもまだ、強くハートを鍛えて生きていかなきゃならないし、キミにもそう生きていってほしいという気持ちも込めてうたったんだ。……ちと調子が長くなってしまったようだな。じゃあ、次はコロッと変わったヤツをうたってやろうか?」

「うん、やっつ」

「じゃあ、頭を切りかえて聴くんだぞ」

「ハハ、大半の今夜は、ハハ、知らない同士、今年の、ハハ、今夜はうちの、人

「フワッ、それは何の暇なの？」

「都々逸というものだ」

「ああ、それが都々逸なの。初めて聴いた」

「じゃあ、二二三、続けてやるぞ、三味線が入らないのが、ちとわびしいけど」

「この袖で、ぶってやりたい。もし届くなら、今宵の二人に、じゃまな月——緋緋袖」

「肩からすべって、のぞいた乳房、にっこり笑って、消す灯り——駒虫が、たった一言、ちっちゃな声で、捨てちゃいやよと」

「さえた晩」

「どうだ？」「感想は、ハハハッ」

「フワッ、何となく色っぽいのはわかる。……テレビの時代劇のシーンみたい、江戸時代の」

「ハハハ、なをほどねえ、なかなか言えてるぞ。それに、山の中でこんなものをやるバカは、平成元禄の世といえども、めったにいないんじゃないかな。バカついでに、いつか山上ヶ岳の宿坊でやってみようか。修験者ツラしたオッサンどもが、ずっけけるんじゃないか？」

「アハハハッ……わたし、あなたがどんな人だかわかってるつもりだったけど、またわからなくなりそう。……あなたは、私みたいな女と一緒にいて、楽しいのかしら」と

思ってしまう。色気も無いしね。……それに……あなたはわたしに何も求めたことがないし……」

「ハハハ、楽しいかどうか、見てりゃわかりそうなんだけど。……次元の違うことを并排定で考えようとしたら、そりゃわからなくなるに決まってるぞ。……では、今宵もうちの離屋へ参るゆえ、きょう心得よ」

「ぼくは笑みを浮かべたまま、だが目を正視してその言葉を聞いた」

「なるほど、離かにオンは何も求めたことがなかったなあ。……逆に、できる限りのことをしてあげたい気持ちなんだよ。……それはわからないだろうなあ。……色気のことじゃないんだぞ、これは。……次元のことじゃないんだぞ、これは。……」

「フワッ……狭き布の部屋ではござりまするが」

「よいよい、苦しくない。その前に、今」

近う寄れ。そちらはキュッセンの仕方が下手であるゆえ、教えてつかわす。焚火のそばでそのを、エグレスではキッス・オブ・ファイヤーとか申すそうじゃ」

「アハハハッ……下手でごめんね」

「ホントにこっちへ来れよ。コップも持たせて」

「うん。では殿のお前に、フワッ」

「ぼくの横に坐ると、彼女は気分良さそうに寄りかかってきた」

その夜、ぼくは彼女を二度抱いた。そして、夜ふりまで起きていることでもあるし、明日は多く釣る必要もないし、余計な養生をしたくないので、早朝からの釣りはやめることにして、その予定を彼女に伝えて眠りについた。

「めっけりと時間をかけて朝食をとったあと、10時から釣りを兼ねて旅費に出かけ、二人でサブザック一つという準備である」

子供のころに、悪道仲間たちと連れだつてトンボやセミ捕り、小ブナ釣りなどによく出かけたものだが、なぜかよく気の合った同じ年の隣家の女の子と、二人だけで行ったことも何度あった。

彼女は嫁いだのちも中学校の教員を続けていると聞きおよんでいるが、今はどうしているだろうか。女教師くらいになっているのだろうか。ふとそんなことを思い出しながら、ぼくはガキのころの世界へ戻っていった。

雄流(60才)の右岸を巻き下って夫婦流を見上げたあと、大和谷の本流を少し下降して左岸の大きなガレから取り付き、雄流(60才)の右を大きく高登いてその上流の川上谷へ入る。

左岸にキヤラ沢の出会いを見て、次に右岸から入る大きな支流の出会いまで行ってみる。そして明日はこの支流を遡って馬ノ鞍へ戻る予定であることを、地図を広げて彼女に説明した。

美しい深坑や清らかな水に変わりはなくとも、年々魚が少なくなり、かつ小ぶりになっていくのがよくわかる。

だが、二人が食べるに十分な数を確保するのは、この辺りともなればむづかしいことではない。むしろ、あまり本気になって釣りすぎないように気をつけた。何しろガキのころから、こつこつこつこつだけは、勉強はもちろんだ、腹食も忘れて熱中するタチだったから。

彼女にも釣らせてみる。ぼくはタバコを吸いながら、ニヤニヤとそれを眺める。そして時々ひやかした。

「オレが釣ったヤツを、もぐって行ってハりに掛けてやろうか？」

「ハハハ、ゼッタイに釣ってみせるからね。少なくとも一匹は」

「まあ、アマゴにもマヌケなヤツが一匹くらいはいるだろう。釣れたらじゅっくりとツラを見てやるよ。女に釣られるヤツなら、鼻の下が長いと思っぞ。少し昼寝でもしようかな、オレは」

ぼくは目を追うのをやめて、少し離れた岩の上に腰をおろした。

そのうちに、彼女はついに一匹釣り上げた。

「やったあ、釣れた釣れたあ！」

「ハハハ、確かに釣れたねえ、釣ったんじやない。竿を上げてみたら、たまたま魚がぶらさがっていたというワケだ、これは」

「ほんとにそうだったの。よくわかるのね。わたし、まわるのは怖いから、あなたつかまえてよ」

「ハハハ、これはたぶんオベが必要だろうなあ。ハリが喉の奥までみ込まれているにきまつてるさ。まあ、それはいいけど、」

まだ自分のしだぞ、アゴが釣ったのは」

「でもなにしろ一匹は釣ったんだからね。分母があといくら増えても、限りなくゼロにはならないもんね、フワッ！」

彼女はうれしそうにおどけて、得意顔をした。

「ハハハハ、わかったわかった。そりゃよかったねえ、お姫さん。もうこれ以上は分母は増えない。これで充分だから、もう釣りはやめる。一番大きなヤツを尻頭つきの塩焼きで焼くささせてやるよ、敢闘賞として」

「でもそれは腹が食べてよ」

「腹減るなよ、今さら。食べたことのないものがたくさん食べればいい。民宿や旅館で食べたことがある善の巻物とは、まるで違うのがよくわかるよ。味噌焼き、汁煮、それから朝は赤だしにも入れようぜ。料理の仕方はデパートへ帰ってから教えてやるよ。……ほな、ぼちぼち揃りまひよか」

「アハハハ、あなたがそんな言葉を使ったら要な感じ。関西人だのにね」

「手を納めて釣り支度を整え、立ち上がったとき、彼女はぼくの首に右手をかけて、ぼくに対して横向きになって二度ほど膝び上がりとうまく姿勢を見せた。

「うん、何をやるんだ？」

「ウフッ……だっ」

「ハハハ、それなら何も跳び上がることはないよ。こうすればいいんだらう」

「ぼくは彼女の足元をすくうようにして抱き上げた」

「力があるのね」

「力持ちには程遠いが、これくらいのことはまだやることができる」

「——かつて彼女と深い関わりを持ったことがある者の男は、彼女を強く抱き上げることができなかったんだ。……彼女のかつての相手なら、せいぜい30歳までの客だ。……にもかかわらずさうだったのなら、少なくとも山屋やスキーマンではないな……そしてなぜか突如として別れた」

「ほとんど一瞬のうちに、ぼくはさう推理した」

「50くらいかな？」

「うん、50から52くらいなの、いつも」

「身長は？」

「155cm」

「……うん、じゃあ、丁度いいところだなあ、健康的には。無理に伸ばす必要は無いよ」

「少し歩いて」

「アコとつき合っていると、何をさせられるかわかったもんじゃないね、フフッ」

「ウフッ、いい気分」

「親子に乗っていると、湖の中へ放り込む」

「アハハハ、わたしは死んでも手を離さないから、あなたも一緒に死ぬことになるのよ」

「ハハハハ、大和存心中か。まだ水が冷たいから速戻しよう。風邪引くとイケナイから」

テント場へ戻ったのは、まだまだ日の高い時刻だった。二つの大滝の往復には、傾斜のきついガレ場の登降・下降や、少々急な斜面のトラバースなどもあったので、故策を兼ねての釣行とはいえ、彼女は多少の緊張感も味わったようだ。

しばらくツェルトの中で、日差しを避けて昼寝でもすればよいと彼女に勧め、ぼくは焚き木を補充したり、魚を焼くための串を削ったり作業をゆくりと進める。

そして、彼女がツェルトの中にいるうちに、すくもばの流れに全裸で入って身体を洗い、着替えもすませた。

そのうち、彼女にも、どこか近くの適當な所で、明るいうちに水浴をすればよいと勧める。山麓の日陰では、いくら六月と

はいえ、寒いだらうと思ったからだ。

さて、魚の料理だが、まずはぼくが一匹の腹わたを出して見本を示し、切り口を小さく、しかも中身を充分に取り出すのが、姿よく焼けるし、気持ちよく食べるためのコツでもあると教えた。

この時彼女は、魚の腹わたを出すのは初めてのことだと口を叩いた。

「ぼくはわざとおおげさに、

「あーあ、あきれたねえ、これは」

「彼女はまじめな顔つきで、

「でも、今は主婦でもそんな機会は少ないのよ」

「まア、それくらいのことではオレでも知っているが、キミは高校を卒業後、去程の暮れまでけっこう長い間一人暮らしをしてたんだらうが」

「一人暮らしはしたことない。大学の時は母方の叔母さんの家に寄宿していたし、就職してからは貸にいたから。食事付きだったの。……わたしは、食事とは関係なく、まったくの一人暮らしはできない性格だと思っ、たぶん。兄貴は大学の時から、今もずっと一人暮らしをしてるけど。寮はあるけど、いやなんだって」

（次号へつづく）

### たのしい山歩き 尾瀬雑考②（最終回）

## 「一步、足を延ばして」

松下 満

尾瀬の周辺には、天然の温泉が湧き出していたり、景観の勝れたところが多い。これらと尾瀬をマッキングさせて山歩きを楽しむ。

松林村 昭和30年代までは資源豊かな村で、当時のガイドブックには、秘境の文字が日に増したが、現在はそんなことはない。でも昔を偲ぶ道跡・遺物は村内のいたるところで見られる。

松林村 松林村は、江戸中期から二百年以上続く山村で、役者は村人で代々世襲制とか、昔のままの姿を見ることが出来る。

毎年5月12日、6月18日の二回は無料で上滝、9月第一十曜日の上滝は有料で鎮守神社前舞合で盛大に行われる。

六地蔵は、凶作のため閉引された赤子やその母親を祀るため、1792年建立された。今も真赤なヨダレ掛けが衰えを誘い豪華が絶えない。

橋場のぼんばは、鎮守神社参道脇にあり、本来は子供を水難から守る水神様であったが、今では縁結び、縁切りの神様として信仰され、多くの嫁が奉納されている。

他に曲馬・板倉・歴史民俗資料館もあり往時を偲ぶことができる。

この村は全戸温泉付きの旅館・民宿が五十軒あり、数こそは、山人料理などでもなしてくれる。山魚の活けにはビックリしたな。目加り客のためには村営の公衆浴場とか所があり、また「アルザ尾瀬の郷」では湯天候館・温泉プール・ウォータライナー等があり、人気を博している。

片岡村 日本最初のテニス村として有名。民宿も多数あり、各宿ともテニスコートをもち、なかには体育館を備えている宿もある。

尾瀬に一番近い集落の戸合は「萩原さん家」ばかり。他姓は六軒だけ。ここの民宿

も温泉付きで、宿によっては鴨鍋が楽しめる。

追分には天然記念物「吹割れの滝」がある。川床が水流と石の力により丸く削られた滝穴が連なる珍しい滝を形成している。落差は7.8mだが日本最大の狸六群で、東洋のナイアガラの滝として親しまれている。

沼田駅からバスで、天狗で有名な遊樂園・強弱寺に着く。境内に入るといまにも天狗が現れそうな雰囲気がある。夏には仏法僧の唱念を聞くこともある。宿場もある。

上藤橋土合駅は新清水トンネル内の地下駅で、地上の改札口まで486の階段を登らなければならない。日本一のモグラ駅である。ここから歩いて50分で谷川岳一の倉沢へ到着する（タクシーもあり）。万年苔が見られ、双眼鏡があればロック・クライマーの勇姿が望遠できる。

周辺には水に温泉湯もあり、その一つ谷川温泉の町営温泉浴場では、谷川岳を見ながら露天風呂が楽しめる。

本誌創刊以来「尾瀬雑考」を書いてまいりましたが、今回を以て閉筆させていただきます。永い間有り難うございました。

松下 満



# やせらぶ

題字・小林玻璃三

登山道を登り始めた頃から腹が痛くなってきた。今頃、トイレに行くのを忘れたのだ。  
登り始めて腹がキムルキムルキムル……と鳴りだした。これはまずいと思い、下腹の筋肉に力を込めた。だが、腹筋の荒波は津波と化して下腹に襲いかかってくる。だめだ。どこかの陰でしてしまおう。登山道の横はブッシュばかりだ。やるならここに突入りなければならぬ。腹にきまされそうだな。そう思っていると、上から人が下ってきた。「こんにちはー」とこやかに挨拶するのだが、内心は全然穏やかではない。再度、キムムと力を込めて歩き始めた。  
岩小な沢上り部を過ぎると、腹痛の激減がさき波に変わった。これ

でたいじょうぶだ。山頂まで我慢できると確信した。  
おぼさん二人組が下ってきた。「こんにちはー。これから登るの？ 水持ってる？ しんどいよ。この道に登るものさ進もうよ」おぼさんのひとりがお、まくしたてるようにしゃべった。  
「山頂の横に蛇口があるのよ。そこは有料。それがいやなら、キャンプ場の水場を使えばいいわ。そこは無料だし」  
「そこを登ると、一度岩壁を登えるの。すると平らになって、そこに出張があるのよ。そこでかき水が食べられるわけ。コップでカリカリと割るの。おいしかったよ。何かコップ持って？」  
「ええ、持ってますよ」

「そう。わたしがおせつかいだか……ごめんね。とにかく水をつけてほしいわ」  
「かき水」という言葉だけが頭に残った。水筒の水、体の中もぬるぬるしてしまっている。何か刺激が欲しいかった。腹筋を巻くるとコップだったが、あれは横口（岳南）のことでだろ。平らになっている所は、豹子平だ。そこまで駆けば、かき水にありつけろわけだ。それからというものは、かきにビッチをあけて歩きたした。  
腹筋を巻くと、豹子平が広がっていた。だが、山深ゆしものは見えな。すれ違ふ人に聞いてみると、縦走路への登りの取り付きまで当深はないそう。残念……。そこからは、編みでだらけた体をひきまわすように歩いた。  
やつのことまで背後にだどり着いた。表面は真っ黒だ。その裏っ腹は表面をシニラカップでカリカリと割る。中は無數の透明な水の結晶だ。すくいあげ、スプーンでナクサクと細かく砕く。そして、ひとくち……。冷たい。口の中心に刺激が広がる。だれかき水が元に戻つていく。水筒にもこの山溪の水を満タン入れた。たちまち

冷やされて水滴がつく。  
「いい気分やな。」と、これから登る道を眺めながら、下腹をさすった。  
（野藤 哲哉）

11月20日、伊賀谷山の山行に参加させてもらいました。この山は昭文社の地図に載っていませんがルートは書かれています。このような山にはよほどの機会がないと行けませんので、どのような山かと楽しみにしていました。  
又谷の登り出しから深い森林。道も森林のために付られた比較的新しい道のように、草を掻く所も余りありません。最初から大層、しかし巨大な谷を越えて、千山の風景は雄偉です。道くには多量の草も見え、左半には999の谷で、右半には比良の雄波の足。道端には非常に変わったコースです。  
ところが、山頂近くになると道は不明瞭になり、主峰標下ではリーダーが群衆を誘導しているのではないかと思ふほどの深い所でしたが、一人の登山者も出さず予定風の正午で山頂に到着。  
中谷への下山コースも途中途日少々道は不明瞭ながらも歩く事はなないであろうと思われたが、下の

方では道が怪しくなり、今度もローダーは間違いない道のない若者無理やり下っていると確信持てる。それにも向らずちゃんとした目的地に降りて来た。  
このようなコースを何のトラブルも無く歩けるのは、しっかりとしたリーダーやサブリーダーの指導がなければいけません。  
以前、比良・常陸山頂から地図と磁石を頼りに正面谷に下ったことがあるが、このようなルート・ファインディングの練習のために経路者も同行して登るのだから、うってつけかも知れない。しかし、口にも無く初心者がたけで入り込む山ではない。  
（同前）

山、とくに山頂には登山記念のいろうんな形が残されています。小学校で集団登山した全氏名の立て成、ファミリー登山の親子の名前を記したプレート、また「第何山頂」と記録した標榜中の人のものなど。  
近頃、北山のあちこちで気がなるのが何々ビークハンター氏のプレートや標榜です。その白く覆った標榜は好きです。その白く覆った山頂を歩くと、山頂の水に驚かして、登山道の木の間には「平成6年何日何日何時間分道越」の落書き。その右に「小原」ビークハンター「休養記念」のプレートまで出現する始末です。  
あなたがどこをいって通過しようが、どこを休息しようか知ったことではないです。登山道で、峠で、山頂で、氏の名前に出くわすと、さっかくの山の楽しさが半減してしまいます。  
10月初め、第何・四見岳の頂上では、麓から登ってこられた熟練の男性が、何枚ものプレートと木からはすし、近くの木の杭に移しておられました。プレートの下から下がついてきたところの木肌にくっきりとあとが残っていました。

<p>休養記念入浴も熱湯 10名以上マイクロボスで湯通し 温泉山石原温泉 湯 田 原 湯 館 〒306-0006 湯田原温泉定宿下野 新田山石原温泉 0466-9141904</p>	<p>さわやか温泉 湯田山温泉（標榜） 湯田山温泉 山ノ内町湯田中温泉温泉 0266-313312 0266-313312</p>	<p>高 峰 温 泉 〒306-0004 長野県八ヶ岳南麓温泉 0266-7125120000</p>	<p>日本最南位の温泉 (2400℃) 立山・美瑛 みくりが池温泉 〒303-0030 立山町五福末止町 0266-4141404040</p>	<p>ハイキングに、スキーに、 石の湯ロッジ スズノ湖の温泉 0266-9134124041 東京本社・東京都新宿区新大塚 03-3334-110211</p>	<p>白黒フランシエ ホテル 〒306-0003 長野県上田県白川村いわたけ 0266-714452</p>	<p>白黒フランシエ 〒306-0002 長野県上田県白川村 0266-7142120227</p>
---	---	---	--	--	--	--

<p>白黒フランシエ ホテル 〒306-0003 長野県上田県白川村いわたけ 0266-714452</p>	<p>白黒フランシエ 〒306-0002 長野県上田県白川村 0266-7142120227</p>
--	--



一方にこんな人もいます。大自然の中で目玉を奪うことなど、まったく意味のないこと。山を愛する新ハイ客の皆さんはさっさとわかって頂きますね。

(梅原 蒼生)

十二月山行報告

3日 関西西園の会例会、嵐山、嵯峨野散策、参加者280名。

4日 伏見公園暗アワードア教室案内、I△在野山、II△在野山、III△在野山、参加者各2万5千名(在野山)、参加者各2万5千名(在野山)、参加者各2万5千名(在野山)。

7日 II△在野山(同「初級」)再調査。

12日 大和歩会案内、毛原御寺(同「名取」)、参加者各2万5千名(在野山)。

17日 II△米谷(同「大和山」)再調査。

18日 点のついで案内、III△米谷(同「古吉野」)、参加者各2万5千名(在野山)。

22日 関西西園の会、第一回青年会(大和歩会)出陣、出席者各2万5千名(在野山)。

25日 III△米谷(同「高野」)、参加者各2万5千名(在野山)。

計324点、82%、今年35局。(上田 健弘)

平成六年の私の山行回数は49回

で、その中の13回は北嶺山を歩いた。拙稿「登山三昧十六巻」の取材で、木曜ハイ客の道しるべの下見と本指などが重なった。昨年より山行回数が多くなった。その集大成ともいえる、「北嶺山」を、坂本から大原へ、年末の晴れの山行にと計画した。

同行者は、新ハイで知り合い、度々一緒に歩くようになった三人のステランだ。近畿一円の名山を知り尽くしたM、世間というよりも、ライターのNの各氏で、このメンバーに入って私は私にくちびしの黄色いビギナーだが、「言い出しっぺ」でもありリーダーをじつとめた。

12月22日、JRは快晴、12月23日、JRは快晴、12月24日、JRは快晴、12月25日、JRは快晴、12月26日、JRは快晴、12月27日、JRは快晴、12月28日、JRは快晴、12月29日、JRは快晴、12月30日、JRは快晴、12月31日、JRは快晴。

あるが、ほとんどは険しい。さながら東嶺の車から小径を通ると岩倉から40分ほど大比叡山頂に着いた。新しい三角点標高は、左から一等と刻まれている。山頂付近には薄く雪が積もり、気分を盛り上げてくれる。駐車場から山頂へ、そして東海自然歩道は北へとなる。玉手形では比叡の雪山、熊現や遠慮を眺めながら昼食。13時、標高山、水井山、三角点を通り過ぎて世の中を北行する。全員の足が新しい快調なペースだ。仰木峠でも眺望を楽しんだが、このコースに至る所が好景が得られる。仰木峠発は15時、いよいよ後半に入り、小野山、6.6kmの峠、そして三角点のある大原山まで気持ちの良い坂道が続いた。

下山は大原を目指し、約40分で音無ノ滝まで急降下して、関根と三丁の急降を下った。16時32分、終着地の大原バスアールに到着した。

歩行タイム(正味)が7時間強、音無ノ滝まで急降下して、関根と三丁の急降を下った。16時32分、終着地の大原バスアールに到着した。

<p>春・秋 小ケルピー 白馬の自然案内します 白馬ファミリーペンション 和 田 森 〒399-0193 長野県北安曇郡 白馬村八方田野 電話 0268-1721535-1</p>	<p>八ヶ岳南麓の中心地 50年伝統の温泉旅館 木の香りの新築温泉旅館 オーレン小屋 1泊2食付き 6000円 4月～11月未開業 〒399-0193 長野県北安曇郡 白馬村八方田野 電話 0268-1721535-1</p>	<p>日本唯一の女人禁制の山「大原」(白馬山)の登山口 松村・岳女入コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 基八 1泊2食付き 7000円から 〒399-0193 長野県北安曇郡 白馬村八方田野 電話 0268-1721535-1</p>	<p>九州の最高峰・日本百名山 宮之浦岳に一番近い宿 星久島安楽登山口 星久島グリーンホテル 〒899-143 鹿児島県鹿嶋郡久野安楽 電話 0997-4163021</p>
--	---	--	---

### 山行計画

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会費に限る」と表記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように保ちて申込んでください。「費用」のほかに参加費として他の資料代を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と遊び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。山行直前の急病、係に保険料(日額50円、夜行日帰りの場合は2日になり100円)を支払って頂きます。(A-I保険会社と契約)

傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
入院保険金 5000円  
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ヒンケル・6本指以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③火・岩・氷雪登山を目的とした山行。④前記以外の事故。(詳細は係まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

山行申し込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (会員でない方は会員外と記入) 生年月日 緊急時の連絡先

往復ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

地図読み山行B (一般向き)  
高取城跡 (新ハイ関西支部合同)  
期日 3月5日(日) 日帰り  
集合 近鉄吉野線高取山駅9時10分  
コース 高取山駅→高取城跡→高取城跡古墳→飛鳥  
費用 約2000円(交通費)  
地図 2万5千1:25000  
◎地元二部 ◎中村 登  
◎小笠原 登  
申込み 〒610-0111 京都市西  
京区入道橋町1の5の3の2 小笠原 登

コンパスの使い方や地図の読み方を学びながら歩くシリーズ。高取城跡からは大峰の山々の白い頂が見えます。山頂回遊を楽しみます。シルバーIII型コンパスと地図を携。雨天中止

平日木曜ハイク8 (一般向き)  
天ヶ岳  
期日 3月9日(日) 日帰り  
集合 京阪出町駅8時50分  
コース 出町駅(電車)鞍馬→天ヶ岳→天ヶ岳→百井峠→百井谷→鞍馬(電車) (一般)

ハイキング・キャンプに  
給湯固定公園  
朝明谷 あさけ茶屋  
〒610-0112  
三重県津市朝明町草  
電話 0593-9911789

1 鞍馬(電車) 出町駅  
(解散18時頃)  
費用 入場料1000円・保険代50円(交通費各別)  
地図 四文社「47頁北山」  
◎朝中 級 ◎湯沢次男  
申込み 〒610-0101 鞍馬市寺  
田大津10の10 新ハイキ  
ング関西まで

早春の天ヶ岳を訪ねる。百井谷を下ります。希望者は鞍馬温泉の露天風呂で一泊します。雨天中止

前撮駅より高御位山健走 (一般向き)  
期日 3月12日(日) 日帰り  
集合 JR西明石駅6番ホーム  
9時50分  
コース 西明石(電車) JR西  
明石→P1555(尾ノ  
黒山)高御位山→P18  
3(鞍馬)→JR鞍馬

費用 約2600円(大阪から交通費)  
地図 2万5千・加古川  
5万・高松

コース ①井上保 ○須磨園榎  
申込み 〒610010 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
②高松は高くありませんが、全行程形のためよい足根歩きが楽しめます。昔根より西神吉町まで全山縦走します。小雨決行

伊勢・蓮子ヶ岳 (一般向き)  
期日 3月19日(日) 日帰り  
集合 国道42号線「おきん茶屋」駐車場9時30分(伊勢自動車道 勢和多気インター「J」を出発)  
コース おきん茶屋→新原川注連指→奥山→林道登山口→水場→腰岩台(猪ヶ岳)→獅子ヶ岳(往復)

費用 保険代500円(現地まで各自)  
地図 2万5千・抽出  
係 ①尾崎英五 ○福地寛夫  
申込み 〒519103 鈴鹿市大久保町2065番地まで  
伊勢の大風が広がり、交通の便が悪いのでマイカー参加の

個人・グループに限らせていただきます。悪しからず。小雨決行  
高松七山歩き  
金尾山から焼杉山(初級向き)  
期日 3月21日(日) 日帰り  
集合 京都出町柳駅バスターミナル9時

コース 出町柳駅(バス)→寺寺→江文神社→林道寺→金尾山→焼杉山→大原分岐→焼杉山→古知谷→大原(宿舎)  
費用 約3000円(交通費)  
地図 昭文社「近畿道北山」  
申込み 〒610010 城陽市寺田大群10の10 村田まで  
春の芽吹きをしながら大原の甲山を縦走します。小雨決行

紀北・高門山と粉河寺 (一般向き)  
期日 3月26日(日) 日帰り  
集合 JR福本駅(北)乗車8時55分(南海野原線)或8時00分(近鉄高野山行き)乗車福本駅JR線乗り換え)福本駅9時04分発和歌山行きに乗車

費用 約2000円(近鉄岡倍野原駅起点交通費)  
地図 2万5千・御所  
昭文社「近畿道紀伊・上正」  
係 ①松永敏一  
申込み 〒5500 松原市岡2の2の22 松永まで  
うららかな陽気と春風にさわわられてのんびり歩く。春のひとときを味わう花見行。雨大中止(本誌学生歴史ハイキング参照)

コース 福本駅(電車)→粉河駅→東杉原→一本松→田代峠→高門山→明神谷→一本松→粉河寺→粉河駅(電車)→福本駅(宿舎)  
費用 約2500円(大阪駅起点交通費)  
地図 2万5千・粉河・高門山  
申込み 〒648 橋本市高門山台39-7 奥野まで  
紀州宮中で高い高門山を目指します。頂上からの紀ノ川の眺めは雄大です。帰りに西国3善札所粉河寺に寄ります。小雨決行

地図 高野山行  
高松七山  
期日 4月2日(日) 日帰り  
集合 阪急山崎線→桂駅改札口9時  
コース 上桂駅→香積山→P43・33→トロッコ車園(トロッコ電車)→JR桂駅

費用 約1500円(交通費)  
地図 2万5千・京都西部・京都西北部・伊賀  
①徳元一彦 ○田村登

三万五劫、日本海など若狭の風景が素晴らしい。(本誌紀伊・ペーシング参照)  
高松七山  
期日 4月23日(日) 日帰り  
集合 JR新大阪駅正出口8時  
コース 新大阪駅(バス)→梅田道野山インターから三尾山登山口→三尾山→峰→佐仲ダム(バス)→新大阪駅

○小笠原郷子  
申込み 〒610111 京都市西京区大宮香世町1-5の2の2 小笠原まで  
コンパスを使って地図読みを学びながら情報を楽しみます。帰路はトロッコ車で保津峡の新緑を楽しみましょう。シルバートラップコンパスと地図必須。雨大中止

伊藤寺から三郎ヶ岳(一般向き)  
期日 4月9日(日) 日帰り  
集合 近鉄線原駅9時  
コース 原駅(バス)→三郎ヶ岳→伊藤寺→三郎ヶ岳→カラト山→送り峠→三郎ヶ岳→石割峠→三郎ヶ岳→高井(バス)→原駅

費用 約4000円(大阪から交通費)  
地図 昭文社「近畿道・伊賀」  
申込み 〒610100 城陽市寺田大群10の10 村田まで  
桜の仏壇寺から三郎ヶ岳へ登ります。多少やおこまがり。小雨決行

山歩きを通じて健康気力づくりと仲間づくりをしませんか。  
安全で楽しい山歩きを目的に、近郊ハイイクからアルプス登山までバラエティーに富んだ活動をしています。  
毎月1〜2回、どなたでも参加でき、お一人でも安心して参加頂けるよう、ベテラン登山家が同行し、案内・山歩します。必ず楽しい規則や制約のない気軽なサークルです。  
会について知りたい方、入会希望者は御連絡ください。

平日本陣ハイイク  
鎌倉山から峰床山(一般向き)  
期日 4月13日(日) 日帰り  
集合 阪急出町柳駅京都バス

コース 出町柳(バス)→坊村一線合山→オグロ坂峠→峰床山→クラガリ谷→八丁平→伊賀谷大橋→英川学校前(バス)→出町柳(解散15時30分)

費用 保険代500円(交通費各自)  
地図 昭文社「近畿道北山」  
申込み 〒610010 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
峰床山では好景が期待できます。八丁平へは足登は、北山歩きの一般コースです。雨大中止

文管春史会  
高城山から弘川寺へ(一般向き)  
期日 4月16日(日) 日帰り  
集合 近鉄線新大塚9時  
コース 新大塚(バス)→コーナウェイ→上桂峠→高野山→ダイセンドトイナル→五ツ辻→桂井神社→高野山→高野山→弘川寺→弘川バス停

三万五劫、日本海など若狭の風景が素晴らしい。(本誌紀伊・ペーシング参照)  
高松七山  
期日 4月18日(日) 日帰り  
集合 JR京都駅発9時15分(南海野原線)或9時00分(近鉄高野山行き)乗車福本駅JR線乗り換え)福本駅9時04分発和歌山行きに乗車

費用 約6000円(大阪から交通費)  
地図 2万5千・宮田  
申込み 〒610010 城陽市寺田大群10の10 村田まで  
丹波 高松七山アルプスの雄「三尾山」にヒカケツツシを眺めます。小雨決行

中八ヶ岳を歩く  
高松七山・白駒池  
期日 5月2日(日) 日帰り  
集合 京阪八条口→観光バスのり42分

大坂府社会体育研究所  
山歩きを通じて健康気力づくりと仲間づくりをしませんか。  
安全で楽しい山歩きを目的に、近郊ハイイクからアルプス登山までバラエティーに富んだ活動をしています。  
毎月1〜2回、どなたでも参加でき、お一人でも安心して参加頂けるよう、ベテラン登山家が同行し、案内・山歩します。必ず楽しい規則や制約のない気軽なサークルです。  
会について知りたい方、入会希望者は御連絡ください。

大坂府社会体育研究所  
「山の会」  
TEL06(375)1821



ミタライ美谷から河川温泉  
①文字歴史散歩②

12月4日(日) 晴れ  
近鉄下市駅9・00(集合) 9・15発下市山駅10・30ミタライ橋口・00ミタライ溪谷11・30(解散) 12・10一瀬集落13・20(河川温泉入浴) 一瀬川バス停15・40下市口駅17・10(解散)  
焚きたてのお湯で、静かなミタライ、ゆつくりと流るる河川温泉。美林にかけた名木並木、山上を流るる白に輝いていた。  
(参加者) 石川芳弘 谷口とも子 高田久子 安井匠之 安井ヒナ子 三木民子 山本 勉 伊藤慶徳香 武田勝雄 奥村誠治 山根ミキ子 美村三枝 里井昌子 千藤千枝子 西原定夫 小倉孝雄 榎本喜久夫 永田博美 田中 誠 田中樹美江 木島清子 平政孝子 松永めぐみ  
◎松永忠一 (計24名)

14・40・15・03 JR北武野駅15・15(解散)  
各社のおサカ谷湯は温泉もよく快楽に飛びてあつたという間に小女郎ヶ池に着いてしまった。池に水が濁るほどの寒さだった。温泉山からは金太郎峠を下ったが、ササが茂って歩きにくかった。  
(参加者) 今井 浩 加藤元彦 石川洋一 野口 修 田中幸子 矢野 晃 三浦忠幸 上井忠孝子 藤尾一正 妹尾公代 宮坂敏彦 齋藤雅治 藤村勝彦 狩野東彦 奥北裕美 原田 昇 岡田恵美子 藤岡克子 布佐信美 多賀田一 多賀久子 辻 義弘 竹田利夫 前田政雄 宮内幸喜 安部 隆 山口博彦 高橋 寛 渡邊公男 金山正也 美村孝治 八島フジ子 横井 徹 横井恭子 奥山繁三 江 弘毅 栗田幸子 田原啓司雄 仲上 浩 高橋順美 原田勝彦 伊川豊彦 ◎山本善治 (計44名)  
◎村田智俊

12月11日(日) 晴れ  
清滝バス停10・30集合一野外広場11・00(やま肉パーティー) 14・00一瀬集落バス停14・30(解散)  
◎村田智俊 (計44名)

12月18日(日) 晴れ  
JR山科駅9・30(集合) 351尾沙門9・50一宮港尾根橋10・05 10・10大文字山11・45(集合) 13・00一瀬と日向宮14・30(解散)  
京阪東線の登りはきつかったが、人のあまり通らないコースだったので大盛り上がりだった。天気がよく、たのしい山行だった。  
(参加者) 今井 浩 主野昭栄

12月23日(日) 晴れ  
JR天王寺駅9・04山中駅10・20一瀬バス停10・55 11・05一瀬バス停11・45 11・50一瀬山12・25(解散) 13・20一瀬山頂駅13・35 14・40一行者堂14・15 15・30 JR大文字駅16・40(解散) 17・30三宮駅  
早もなく涼やかな晴大に恵まれた最高の日だまりハイキングだった。雲山山頂より15分間の展望台からは雄大な紀ノ川と紀州の山々が見渡された。  
(参加者) 藤田光彦 原野正弘 近藤 誠 野口 修 野口玉枝子 加藤元彦 三浦忠幸 上井忠孝子

狩野東彦 三木良子 立川勉夫  
前田政雄 水野野江 村 優子  
木島清子 芝野善明 山崎多恵子  
三宅 明 真田久子 千藤千枝子  
藤原順美 松下 武 久保田英次  
西村芳彦 福田照子 安田由美子  
布原博美 今西光男 四ノ宮陽子  
山本 勉 小田国子 中村勝香  
上田重子 堀 久子 中上紀代子  
里井昌子 明神成行 明神世博子  
奥村誠治 塚元一彦 山盛加奈子  
湯沢次男 高橋 寛 橋本喜久夫  
上坂延枝 横井恭子 岩本いすく  
小倉孝雄 中野定夫 小島フジ子  
井上敏子 菅沼昌隆 安田文美江  
井上敏子 菅沼昌隆 安田文美江  
大村博彦 則定保夫 中井ひろみ  
飯見裕子 竹内三三 中島加代子  
菅原孝次郎 ◎山本善治 (計24名)  
◎村田智俊

12月11日(日) 晴れ  
清滝バス停10・30集合一野外広場11・00(やま肉パーティー) 14・00一瀬集落バス停14・30(解散)  
◎村田智俊 (計44名)

12月18日(日) 晴れ  
JR山科駅9・30(集合) 351尾沙門9・50一宮港尾根橋10・05 10・10大文字山11・45(集合) 13・00一瀬と日向宮14・30(解散)  
京阪東線の登りはきつかったが、人のあまり通らないコースだったので大盛り上がりだった。天気がよく、たのしい山行だった。  
(参加者) 今井 浩 主野昭栄

12月23日(日) 晴れ  
JR天王寺駅9・04山中駅10・20一瀬バス停10・55 11・05一瀬バス停11・45 11・50一瀬山12・25(解散) 13・20一瀬山頂駅13・35 14・40一行者堂14・15 15・30 JR大文字駅16・40(解散) 17・30三宮駅  
早もなく涼やかな晴大に恵まれた最高の日だまりハイキングだった。雲山山頂より15分間の展望台からは雄大な紀ノ川と紀州の山々が見渡された。  
(参加者) 藤田光彦 原野正弘 近藤 誠 野口 修 野口玉枝子 加藤元彦 三浦忠幸 上井忠孝子

12月23日(日) 晴れ  
JR天王寺駅9・04山中駅10・20一瀬バス停10・55 11・05一瀬バス停11・45 11・50一瀬山12・25(解散) 13・20一瀬山頂駅13・35 14・40一行者堂14・15 15・30 JR大文字駅16・40(解散) 17・30三宮駅  
早もなく涼やかな晴大に恵まれた最高の日だまりハイキングだった。雲山山頂より15分間の展望台からは雄大な紀ノ川と紀州の山々が見渡された。  
(参加者) 藤田光彦 原野正弘 近藤 誠 野口 修 野口玉枝子 加藤元彦 三浦忠幸 上井忠孝子

新ハイキングクラブ関西  
入会のご案内  
このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(総務)はすべて毎回の歩行で、各自で初歩を買い代を払い、前泊料もすべてフリーです。  
あなたも新ハイキングクラブ関西

山行リーダー募集  
新ハイキングクラブ関西では、会費の増加に伴って、山行計画の回数を増やしていく必要がありまます。リーダーは2か月に一回程度、山行計画を立案し、実施して頂きます。  
申し込みの受け付けなど、いろいろな条件がありますが、経験のある方が、やってみたいと思われの方は当会本部(村田)までご連絡下さい。

○新人会員登録(215まで)  
黒坂勉一 福田清章 原内正志  
古山勇男 古山亨子 藤原由紀  
坪田 壽 宇山尚志 中川英治  
井尻隆夫 十郎三枝 堅田美奈子  
高橋 博 若井 清 藤本三郎  
藤原雅美 田中久司 中津朱実  
細田武雄 後高代 井上正恵  
北山 勇 尾加弘之 原水章行  
福田新男 橋本博光 橋本順子  
藤中民彦 岡田実美 高橋謙秀  
小林 登 大井 洋 高橋敬明美  
林 茂 林 和昭 村 澤代  
赤六角雄 澤三誠郎 藤田正一  
原田有 一 千珠和子 秋田英純  
藤下芳子 高津和子 美田友子  
大辻俊子 安田泰幸 増田和子  
本間 隆 本間繁子 榎野哲也  
井上敏子 西本博之 本田トヨミ  
山根輝子 岩野 昇 岩野孝昭  
野村智雄 四方雅英 橋本由紀江  
小林政男 藤木美栄 村尾善志郎  
村尾和子 堀 久子 中村俊香  
岡 邦男 栗田和久 中上紀代子  
堀田生吉 山下 健 山下三恵子  
堀田文雄 山本卓治子  
橋田西雄 正木喜久 近藤信郎  
西田和夫 二井 大 二井美登子  
上田謙子 西川孝信 佐々木敏雄  
渡瀬雅雄 藤野哲子 岡田良介

訂正と謝辞  
20号(新巻) P19下段の14行目「原文社の地図では新阪道がハイキングコースになっているが」とありますが、新しい地図では、新谷川沿いの道をハイキングコースに採用しています。◎高田実久  
20号(新巻) P19下段の14行目「年末、12月15日から特別期に入り」とは「1994年11月15日から」とが正しい。  
20号(新巻) P19下段の5行目「からの文章を次の通り訂正します。」  
「それはよります。ハイキングは、1つだけやはり二汗山ではなく、地元では終立山、公館、支那館からの各々の道が安全です……」  
同20号の18行目「一瀬ヶ池」は「しかがほ」が正しい。

12月23日(日) 晴れ  
JR天王寺駅9・04山中駅10・20一瀬バス停10・55 11・05一瀬バス停11・45 11・50一瀬山12・25(解散) 13・20一瀬山頂駅13・35 14・40一行者堂14・15 15・30 JR大文字駅16・40(解散) 17・30三宮駅  
早もなく涼やかな晴大に恵まれた最高の日だまりハイキングだった。雲山山頂より15分間の展望台からは雄大な紀ノ川と紀州の山々が見渡された。  
(参加者) 藤田光彦 原野正弘 近藤 誠 野口 修 野口玉枝子 加藤元彦 三浦忠幸 上井忠孝子